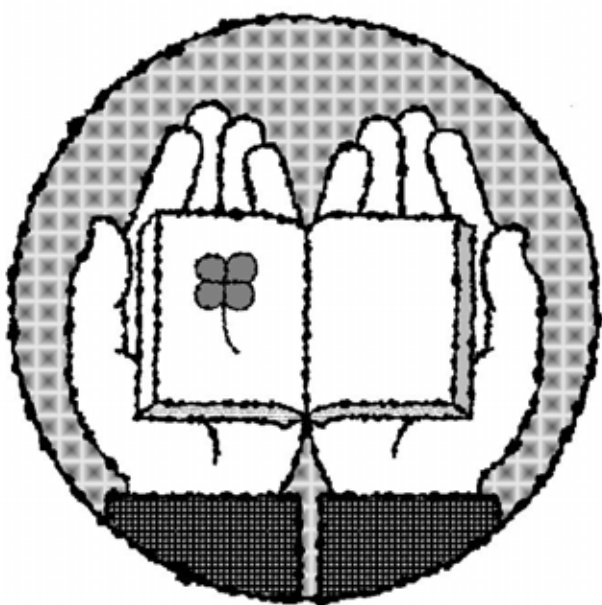


さいたま市子ども読書活動推進計画(改訂版)



平成23年4月

さいたま市

はじめに

子どもにとって読書は、考える力を養い、表現力を身に付け、創造力を育む、心の成長や自己形成に欠かすことのできないものです。

子どもは、本との出会いを通じて、広い世界を知り、豊かな感性を磨き、時には勇気や希望を与えられ、人として成長していきます。

さいたま市では、平成18年3月に「さいたま市子ども読書活動推進計画」を策定し、子どもの読書活動の推進に取り組んできました。その間、市立小学校・中学校における「朝の全校一斉読書」の実施率の増加や、学校図書館司書の全校配置など、一定の成果を見ることができました。

しかし、近年、パソコンや携帯電話の普及等により、子どもの読書離れ、活字離れが懸念されており、特に年齢が上がるにつれて、読書に魅力を感じるものが少なくなっている傾向がうかがえます。

このたび、当初計画の目的や基本方針を引き継ぎながら、計画の見直しを図り、「さいたま市子ども読書活動推進計画」を改訂いたしました。

本計画に基づき、家庭、地域、図書館、学校などにおける取り組みの一層の充実を図り、一人でも多くの子どもが読書に親しめる環境づくりを進めてまいります。

平成23年4月

さいたま市長 清水 勇人

目 次

第1章 計画策定の背景	1
1 子どもの読書活動の意義	1
2 国・県の動向	1
3 さいたま市の現状	2
～読書についてのアンケート調査結果より～	
4 「さいたま市子ども読書活動推進計画」の成果と課題	5
(1) “不読者ゼロ”の目標について	5
(2) 関連事業の取り組みについて	6
第2章 計画の基本的な考え方	7
1 計画の目的	7
2 基本方針	7
3 計画の目標	8
4 計画の期間	8
5 計画の対象	8
第3章 読書活動の推進に向けて	9
1 読書活動の推進のための役割	9
(1) 家庭の役割	9
(2) 地域の役割	9
(3) 図書館の役割	9
(4) 学校の役割	10
(5) 保育所や幼稚園の役割	10
2 読書活動の推進に向けた取り組み	11
(1) 家庭での取り組み	11
(2) 地域での取り組み	13
(3) 図書館での取り組み	15
(4) 学校での取り組み	19
(5) 保育所や幼稚園での取り組み	22
3 読書活動を推進するための普及啓発	24
(1) 広報・啓発の推進	24
(2) 関係機関との連携	25
(3) 子ども読書アンケートの実施	25
第4章 資料編	27
1 「読書についてのアンケート調査」について	27
2 さいたま市立図書館一覧	52
3 子どもの読書活動の推進に関する法律	53
4 さいたま市子ども読書活動推進会議委員	56

第1章 計画策定の背景

1 子どもの読書活動の意義

子ども時代は未知のものに囲まれています。子どもたちが旺盛な好奇心で多くの経験を重ねていく中で、読書の体験は子どもたちの世界を一気に広げる力を持っています。

子どもたちは、本の世界で物語の主人公と一体化し、さまざまな生き方を体験します。また、科学やノンフィクションの本では、今まで知らなかった事実に触れ、調べたり発見したりする喜びを知ります。

読書の楽しみは個性的で変化に富んだものですが、十分に読書を楽しむことによって、豊かな情操や資質・能力を身に付けていきます。それは、生涯にわたって生きていくための、大きな力を子どもたちに与えます。

子どもの読書活動は、「子どもが、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付けていく上で欠くことのできないもの」(「子どもの読書活動の推進に関する法律」第2条)です。

このような読書の大切さを踏まえ、子どもたちがより多くの本に親しみ、読書の習慣を身につけられるよう、子どもの読書活動の計画を策定しています。

2 国・県の動向

国は、平成13年12月に「子どもの読書活動の推進に関する法律」を制定しました。これは、子どもの読書活動の推進に関する基本理念を定め、国及び地方公共団体の責務を明らかにしたものです。この法律に基づき、平成14年8月には「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」が策定され、さらに、策定から5年を経過した平成20年3月には、「第二次子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」が策定されました。

また、文字・活字文化の振興に関する施策の総合的な推進を図ることを目的として、平成17年7月に「文字・活字文化振興法」が制定され、すべての国民が豊かな文字・活字文化の恵沢を享受できる環境を整備すること、また、そのために学校教育においては、読む力、書く力及び言語力の涵養に十

分配慮することと規定されています。

埼玉県においても、国の動向を踏まえ、平成 16 年 3 月に「埼玉県子ども読書活動推進計画」を策定し、平成 21 年 3 月には、同計画の第二次計画が策定されました。

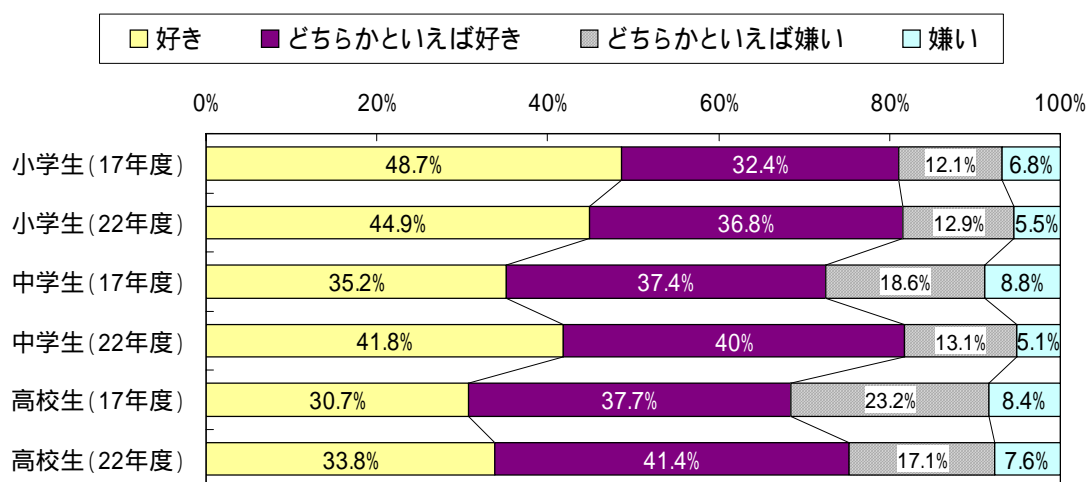
また、県内で子どもの読書活動の推進に携わる方々を支援することを目的として、埼玉県立久喜図書館内に「子ども読書支援センター」(平成 17 年 4 月設置)が設置されており、子どもの読書に関する情報提供や相談業務等を行っています。

3 さいたま市の現状 ~読書についてのアンケート調査結果より~

さいたま市では、平成 17 年度に市立小・中・高等学校に在籍する児童生徒を対象として『さいたま市子ども読書アンケート*1(以下アンケートという)』を実施し、子ども読書活動推進計画策定の基礎資料としました。以後、アンケートは平成 22 年度まで毎年実施しており、市内の子どもたちの読書活動の実態を把握する基礎資料となっています。

アンケート結果によれば、読書の好き嫌いを聞いた問いに「好き・どちらかといえば好き」と答えた子どもが小・中・高校生とも 8 割前後にのぼり、さいたま市の子どもたちは、読書に対する興味や関心は高いことがわかります。また、この結果は、調査 1 回目の平成 17 年度から平成 22 年度にいたるまで大きな変化はなく、読書に対する興味や関心は高く保たれています。

「あなたは本を読むことが好きですか」の質問に対する結果



*1「さいたま市子ども読書アンケート」

平成 17 年 10 月から 22 年 10 月の 6 年間に亘り、市内の小・中・高校の約 2,500 人を対象に、さいたま市教育委員会が実施した調査です。詳細は巻末の資料集を参照してください。

また、最近1か月間に読んだ本の冊数を聞いた問いについては、17年度調査では小学生の平均が6.36冊、中学生が2.60冊であるのに対し、22年度調査では、小学生10.44冊、中学生4.37冊と、読書冊数は着実に増加しています。

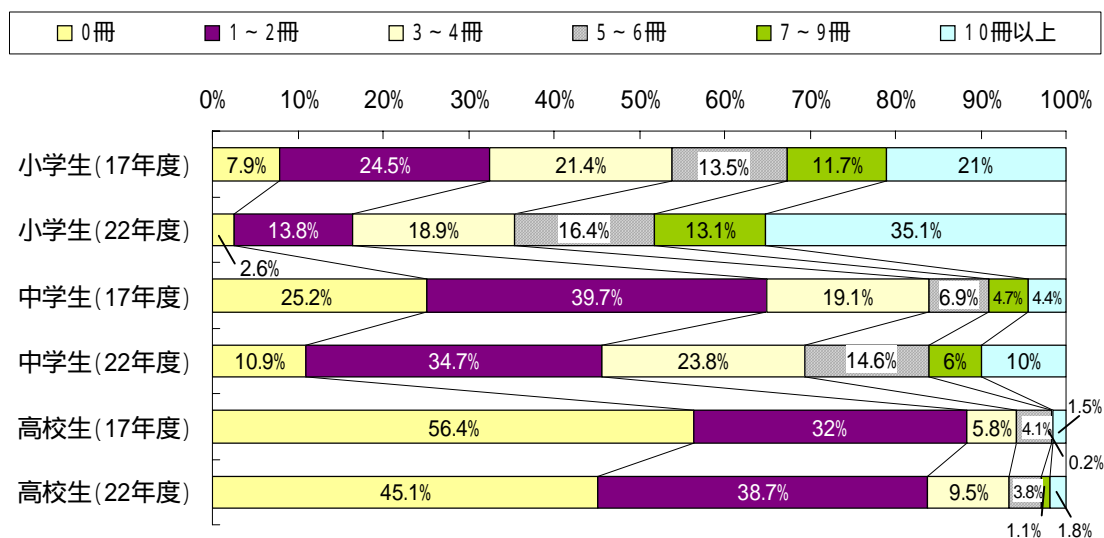
一方、最近1か月に1冊も本を読んでいない「不読者」の割合は、小学生が17年度7.9%から22年度2.6%、中学生が17年度25.2%から22年度10.9%と減少しており、やはり子どもたちの平均的な読書量は増加していると考えられます。

ただし、高校生では、平均冊数が17年度1.15冊から22年度1.49冊、不読者の割合が17年度56.4%から22年度45.1%と、いずれも読書量の増加傾向は見られるものの、小中学生のような大幅なものではありません。

また、読書量のほか、図書館の利用に関する調査項目においても、小中高と学年が進むにつれて、徐々に本との関わりが減る傾向が見られます（詳細は巻末の資料参照）。

「あなたは最近1ヶ月間に本を何冊ぐらい読みましたか」の質問に対する結果

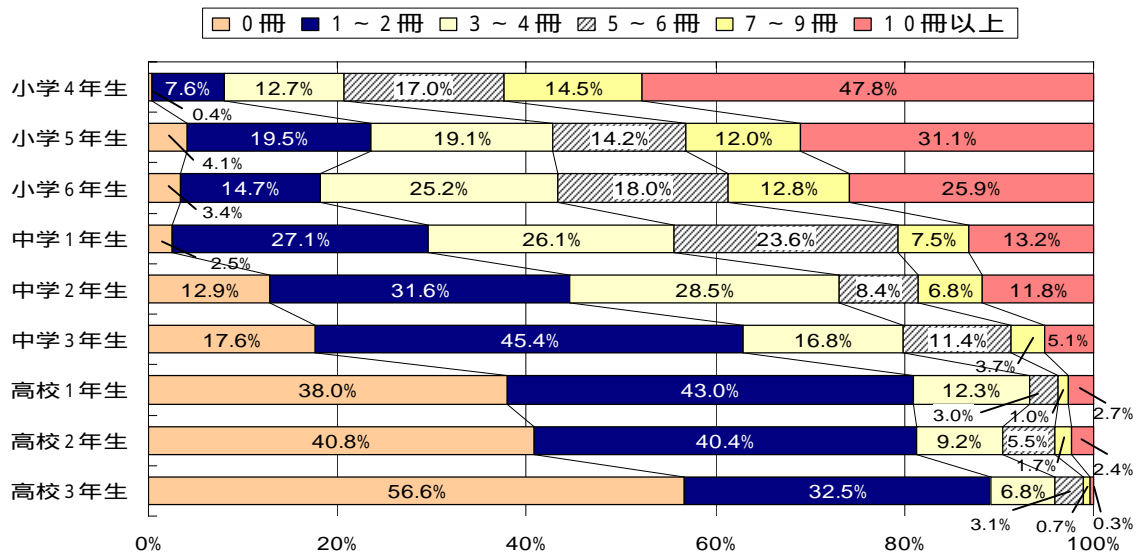
nは回答者数		0冊	1～2冊	3～4冊	5～6冊	7～9冊	10冊以上	平均冊数
小学生	17年度(n=429)	34人	105人	92人	58人	50人	90人	6.36冊
	22年度(n=809)	21人	112人	153人	133人	106人	284人	10.44冊
中学生	17年度(n=408)	103人	162人	78人	28人	19人	18人	2.60冊
	22年度(n=816)	89人	283人	194人	119人	49人	82人	4.37冊
高校生	17年度(n=463)	261人	148人	27人	19人	1人	7人	1.15冊
	22年度(n=887)	400人	343人	84人	34人	10人	16人	1.49冊



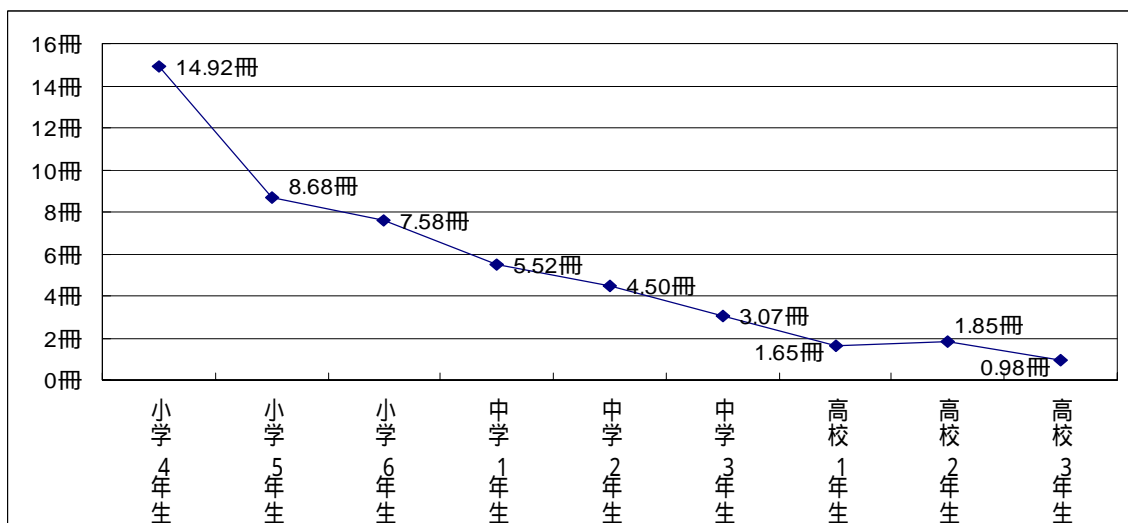
参考資料：小学4年生から高校3年生までの推移（平成22年度アンケート結果より）

「あなたは最近1ヶ月間に本を何冊ぐらい読みましたか」の質問に対する結果

		0冊	1～2冊	3～4冊	5～6冊	7～9冊	10冊以上	平均冊数
小学生	4年生	1人	21人	35人	47人	40人	132人	14.92冊
	5年生	11人	52人	51人	38人	32人	83人	8.68冊
	6年生	9人	39人	67人	48人	34人	69人	7.58冊
中学生	1年生	7人	76人	73人	66人	21人	37人	5.52冊
	2年生	34人	83人	75人	22人	18人	31人	4.50冊
	3年生	48人	124人	46人	31人	10人	14人	3.07冊
高校生	1年生	114人	129人	37人	9人	3人	8人	1.65冊
	2年生	119人	118人	27人	16人	5人	7人	1.85冊
	3年生	167人	96人	20人	9人	2人	1人	0.98冊



(1ヶ月の平均冊数の推移)



4 「さいたま市子ども読書活動推進計画」の成果と課題

(1) “不読者ゼロ”の目標について

当初計画では、まず、子どもが1冊の本を手にすることが重要という認識の下に、1か月に1冊も本を読まない「不読者」の割合を減らし、平成22年度にはゼロにすることを数値目標として掲げました。

	平成17年度 (第1回アンケート結果)		平成20年度		平成22年度
小学生	7.9%	→	4%	→	0%
中学生	25.2%	→	15%	→	0%

不読者割合の実績値

	平成17年度	平成20年度		平成22年度	
		目標	結果	目標	結果
小学生	7.9%	4%	2.3%	0%	2.6%
中学生	25.2%	15%	8.3%	0%	10.9%
(参考)高校生	56.4%		45.4%		45.1%

平成22年度調査の結果では、目標の0%の実現はできませんでしたが、平成17年度調査と比較して、小学生・中学生とも不読者の割合を大きく減らし、一定の成果を見ることができました。

一方、この目標数値では対象としていない高校生については、小中学生と比べ不読者の割合がかなり高くなっています。

学年が高くなるにつれて「読書離れ」が進むのは、学校での授業時間の増加やクラブ活動、受験勉強などによる読書時間の減少、また、趣味、ゲームなど興味のある対象が増えて、読書に関心を寄せる子どもの割合が減少するなどの理由が考えられます。ただし、興味や知識の幅が広がる10代後半の子どもたちは、それだけ豊かな読書体験を積むことのできる年代であり、その年代の「読書離れ」を食いとめることは、大きな課題となっています。

(2) 関連事業の取り組みについて

計画に関連して取り組んだ主な事業の成果については、以下のとおりです。

学校図書館コンピュータの全校配置に取り組み、平成 19 年度に達成しました。各校にて蔵書のデータベース化を図り、管理・運営を行っています。

学校図書館司書の全校配置に取り組み、平成 19 年度に達成しました。学校図書館司書は、各学校の図書館において、蔵書の管理や貸出・返却、レファレンス、学習資料等の準備、イベントの開催等、様々に貢献し、学校図書館の活性化が図られています。

学校図書館司書配置校の推移（「学校図書館運営報告」より）

	平成 18 年度	平成 19 年度	平成 20 年度	平成 21 年度
小学校	95 校	101 校	101 校	102 校
中学校	53 校	57 校	57 校	57 校
合計	148 校	158 校	158 校	159 校
実施率	94.8%	100%	100%	100%

朝の読書などの「全校一斉読書」の活動は、小学校 99%、中学校 91%（平成 22 年度 4 月調査）の学校で実施されており、子どもたちの読書冊数の増加に大きく貢献しています。

中央図書館に、「さいたまゆかり」コーナーを設置しました。石井桃子・瀬田貞二を中心とした関連図書の収集とデータベース化を実施しました。

図書館のホームページに、「としょ丸」（こどもの本のページ）と「10代のページ」を新たに設け、子ども向けに本に関する情報等の発信を開始しました。

赤ちゃんと保護者が参加できる「あかちゃんおはなし会」等の実施館が徐々に増え、平成 22 年度は 17 館となりました。

	平成 18 年度	平成 19 年度	平成 20 年度	平成 21 年度
実施館数	7 館	9 館	12 館	12 館
延回数	114 回	113 回	162 回	167 回
延参加人数	4,070 人	4,034 人	5,972 人	5,852 人

第2章 計画の基本的な考え方

1 計画の目的

本計画は、国が平成13年に制定した「子どもの読書活動の推進に関する法律」に基づき、本市における子ども読書活動に関する施策の方向性を示すとともに、子どもが読書の楽しさや大切さを知り、自ら進んで本を読むような環境づくりを、家庭・地域、図書館、学校などが連携して推進するための指針として策定するものです。

2 基本方針

当初計画では、子どもたち自身に読書の楽しさを知ってもらう側面、大人たちにも子ども読書の大切さを理解してもらう側面、家庭・学校・図書館・地域が連携して体制づくりを進めていく側面から、以下の3つの基本方針を定めました。

本計画においても引き続き、この基本方針に基づき、子ども読書活動を推進していきます。

楽しむ読書

すべての子どもたちに、読書のきっかけとなるようなさまざまな場を提供し、自由に、また自ら進んで本を読みたくなるような環境を整え、子どもたちに読書の楽しみや喜びを広く伝えます。

みんなで読書

子どもの読書活動を推進するためには、まわりの大人の働きかけが大切です。大人にも本の素晴らしさや読書の必要性を伝え、子どもと一っしょに本の世界に親しむことにより、子どもの読書の意義・大切さについて理解を深めていきます。

支える読書

家庭、地域、学校及び図書館などがそれぞれの役割を担うことに加え、相互に連携・協力を図り、社会全体が一つになって、子どもの読書活動を支えていく体制づくりを進めます。

3 計画の目標

さいたま市は“不読者ゼロ”を目指します。

「まず、子どもが1冊の本を手にすることが重要」とした当初計画を引き継ぎ、本計画においても、1ヶ月に1冊も本を読まない「不読者」の割合を減らすことを、ひとつの数値目標として掲げます。

本と全く関わりを持たない子どもが少しでも減っていくよう、「不読者」の割合を「0%」に近づけることを目指していきます。

4 計画の期間

本計画の期間は、平成23年度からおおむね5年間とし、毎年、計画の進行管理を行い、必要に応じて改訂していくこととします。

5 計画の対象

本計画の対象は、おおむね18歳以下の子どもとします。

電子書籍の扱いについて

平成18年に策定された当初計画には電子書籍に関する記述はありませんでしたが、インターネットのさらなる普及などにより、現在、多くの子どもたちがパソコンや携帯電話で電子書籍に触れることができる状況となっています。

読む行為としては、紙の書物であれ電子書籍であれ、違いはないと言えますが、一方で、インターネットは子どもにとって有害な情報等へのアクセスも容易であることなどから、電子書籍を紙の書物と同様に子どもの読書活動推進の対象とすることは、今なお課題があると考えます。

今後、さらに広まるであろう電子媒体による読書についても考慮しつつ、現時点では、本計画は紙の書物を基本的な対象とします。

第3章 読書活動の推進に向けて

1 読書活動の推進のための役割

(1) 家庭の役割

子どもの読書習慣は、日常生活を通して形成されるものであり、家庭は子どもに読書の楽しさや大切さを伝えるうえで、重要な役割を担っています。

乳幼児期においては、読み聞かせをしたり、子どもと一緒に本を読んだり、本に触れる機会を多く持つように心がけることが大切です。また、児童・青少年期においては、保護者自身が読書に親しむことや、好きな本を話題に取り上げるなど、保護者からの働きかけが必要です。

(2) 地域の役割

地域においては、ボランティアや行政等が協力し、子どもと保護者が読書に親しむ機会を提供することが大切です。

さいたま市では、公民館の子ども文庫、子育て支援センター、児童センターなどにおいて、ボランティアによる読み聞かせやおはなし会などの活動を行っています。

本を通して一人ひとりの子どもの成長を見守るような、地域に密着した活動をさらに深めていく必要があります。

(3) 図書館の役割

図書館は、子どもが読書を楽しむことのできる最も身近な施設です。乳幼児、小学生、中学生、高校生等、子どもの発達段階に応じた蔵書の充実を図るとともに、児童担当職員が子どもたちの本選びや調べ物をサポートします。また、様々な催し物を開催し、子どもが本や読書に親しむ機会を提供します。さらに、学校、保育所・幼稚園、子ども読書に関するボランティア団体などと連携を深め、地域の読書活動の推進を図ります。

図書館には、子どもたちに本のすばらしさを伝え、豊かな読書体験の場を用意することで、心豊かな子どもに育てるという役割が求められています。

(4) 学校の役割

学校においては、それぞれの発達段階に応じて、児童生徒の読書に親しむ態度を育成し、読書習慣を身に付けさせることが大切です。

そのため、全校一斉読書や学校での読み聞かせなどの取り組みを推進していくとともに、学校図書館機能を充実させ、児童生徒が主体的・意欲的に読書活動や学習活動に取り組める環境づくりを進めます。

(5) 保育所や幼稚園の役割

幼児期に多くの絵本や物語に出会うことは、生涯にわたる自己形成の基礎を育むうえで、とても重要です。

保育所等においては、絵本やおはなしの読み聞かせなどの取り組みを充実させ、子どもの豊かな創造力を高められるような環境づくりを進めていくとともに、読み聞かせの楽しさや意義を保護者に伝えていくことが大切です。

2 読書活動の推進に向けた取り組み

(1) 家庭での取り組み

楽しむ読書 ...	よい読書環境をつくります
みんなで読書 ...	「子どもといっしょに読書タイム」を推進します ブックスタートを推進します

よい読書環境をつくります

家庭でよい読書環境をつくるためには、次のような取り組みが大切です。さまざまな機会をとらえて、保護者に呼びかけていきます。

ア 子どもの身近に本を置く

すぐに手が届くところへ本を置くことで、子どもに本の存在が伝わり、実際に手に取って試みることができます。図書館などを利用することにより、多くの本を子どもの身近に置くことができます。

イ さまざまな手段で本に親しむ

子どもへの読み聞かせ、子どもの朗読を聞く、子どもといっしょに本を読むなど、さまざまな方法が本に親しむことにつながっていきます。

ウ 子どもの前で、保護者が率先して本に親しむ

本を読んでいる保護者の姿を見ることは、子どもが本に興味を持つきっかけになります。

エ 子どもの本について悩みや質問があるときは、図書館や読書ボランティア^{*2}に聞いてみる。

図書館では、読書相談を受け付けており、おすすめ本などの情報を入手することができます。また、地域の読書ボランティアに相談することもできます。

*2「読書ボランティア」

子どもたちに本の楽しさを伝えたいと、図書館、公民館、自治会の集会施設、学校などで、読み聞かせ、おはなし会、本の貸出などを行う個人やグループの総称です。

「子どもといっしょに読書タイム」を推進します

家庭内に子どもにとってよい読書環境をつくるには、保護者が率先して子どもといっしょに本に親しむことが必要です。

そこで、子どもと保護者が、本に親しむことを目的とした「子どもといっしょに読書タイム」を提唱しています。

これは、一日のうちのある時間帯を「子どもといっしょに読書タイム」と決めて、読み聞かせ、子どもの朗読を聞く、本について話すなどの機会をつくることです。

何よりも、本を通して同じ時間を過ごすこと、そして、保護者から子どもへ「本は楽しい」と伝えることが重要です。今後も、引き続きポスターの掲示等により啓発に努めていきます。

ブックスタート^{*3}を推進します

ブックスタートは、絵本を介して、赤ちゃん和ゆっくりふれあい、心安らぐひとときを過ごしていただくことを願い、赤ちゃん和保護者の交流の場、遊びの場である「単独型子育て支援センター」を主会場として絵本などが入ったブックスタートパックをプレゼントするとともに、読み聞かせ方や本の選び方のアドバイスを行う事業です。

今後は、「単独型子育て支援センター」の特色を生かして、更なる内容の充実を図っていきます。

*3「ブックスタート」

「親子が絵本で喜びを分かち合おう」という呼びかけで1992年にイギリスで始まった運動です。日本では、子ども読書年（2000年）を機会に取り組みが盛んになっています。

さいたま市では、平成15年（2003年）度から、乳児とその保護者に絵本を手渡し、「本を通して、子どもと保護者がいっしょに楽しい時間を過ごす」ことの大切さをおはなししています。

(2) 地域での取り組み

支える読書 ...	地域での子どもの読書活動をすすめます 地域での子どもの読書活動の情報提供に努めます 読書ボランティアの養成と支援をすすめます
楽しむ読書 ...	本に親しむ機会を提供します

地域での子どもの読書活動をすすめます

地域では、子ども読書に関するボランティア団体が、様々な活動を行っています。

公民館においては、地域の子どもの対象に、公民館文庫で児童図書の貸出や読み聞かせなどが行われています。今後も、地域の子どもの本に触れられる機会を提供し、健全な育成を支援していきます。

図書館においては、地域の子どもの文庫への情報提供や、「おはなしフェスタ」・「おはなしパレード」などを実施する際の活動場所の提供、及び、団体間の交流を促す場の提供にも努めていきます。また、民間施設での子ども読書に関する催し物の開催や、NPOなど地域の力を活用した事業の実施など、民間や地域との連携を図っていきます。

地域での子どもの読書活動の情報提供に努めます

各地域の子育て支援センター、児童センター、子育てサークルなどでは、読み聞かせ、おはなし会など、さまざまな活動を行っています。これらの活動について、「子育てきっかけ応援ブック」などで情報を提供して参加を呼びかけ、子どもの読書の大切さについての理解を深めてもらうよう努めていきます。

読書ボランティアの養成と支援をすすめます

読書ボランティアが身近にいることが、子どもと本を結びつけることにつながります。読書ボランティアとして活動したい、活動内容を知りたい、現在も活動をしているがさらに勉強したいという方々に、初心者向けの養成講座や活動中のボランティア向け講座などを実施し、子どもに本を手渡すために必要な知識・技術を習得するための取り組みを行います。

また、図書館で活動している読書ボランティアの団体については、問い合わせや参加希望について図書館が窓口となり、図書館ホームページで活動内

容などを紹介していきます。

本に親しむ機会を提供します

うらわ美術館では「本をめぐるアート」作品の収集を行っています。また、資料として国内外の絵本やポップアップブック（飛び出す絵本）なども多数収集しています。市内の小・中学校へ出向いて、「本の出張授業」を行い、鑑賞学習のサポートをしています。様々な色や形の珍しい本に触れることにより、より身近に本と親しむ機会を提供していきます。

さらに、うらわ美術館で開催する絵本の企画展に、図書館の児童担当職員が参加するなど、図書館と美術館の連携をすすめます。

また、市立博物館においても、企画展の関連図書の展示など、図書館と博物館が連携して事業を行っています。

(3) 図書館での取り組み

楽しむ読書 ...	読書環境の整備・充実をすすめます 本に親しむ機会を提供します 「本は王さま」などの広報誌で、本の情報などを提供します 中央図書館に、さいたま市ゆかりの児童書を収集し、作家を紹介していきます 障害のある子どもや、日本語を母国語としない子どもへのサービスを充実します
支える読書 ...	児童担当職員の養成に努めます 関係機関との連携を深めます

読書環境の整備・充実をすすめます

乳幼児・小学生・中学生・高校生、それぞれの発達段階に応じた収書に努めます。また、ストーリーなどを楽しむ「読み物」と子どもたちの知的好奇心に応える「調べ物」資料をバランスよく収集し、レファレンス^{*4}に対応できる蔵書構成となるように努めます。各図書館に児童室または児童コーナー・図書館によってはヤングコーナーを設け、楽しいディスプレイや分かりやすい案内表示などを行い、子どもたちが、自分にあった本を、ゆとりを持って探したり読んだりできるスペースを確保します。読書離れが懸念される中学生・高校生に向けてはヤングコーナーの充実やフロアワークで本の紹介をするなどの働きかけをしていきます。

また、平成 24 年度には（仮称）武蔵浦和図書館が開館し、近隣の子どもの読書環境が整います。

本に親しむ機会を提供します

図書館では本の貸出だけではなく、催し物も行っています。催し物を開催することは、乳幼児や普段図書館に親しんでいない子どもへの働きかけになり、関連する本を紹介することで、子どもと本を結びつけるきっかけになります。また、大人対象の講座、講演会も開催しています。

定期的なおはなし会、乳幼児向けのあかちゃんおはなし会、季節のこども会、映画会などは、さいたま市の図書館全館が実施しており、参加した児童数は、平成 21 年度一年間で延べ 27,390 人になりました。

*4「レファレンス」

図書館が利用者の問い合わせに応じて、図書の検索や資料の提供を行うサービスのことです。

また、「図書館まつり」や「区民まつり」などの機会にもおはなし会や本に関するイベントを実施しています。

これからも、子どもたちやその保護者に向けた行事を充実させ、本と子どもを結ぶ架け橋となります。

「本は王さま」などの広報誌で、本の情報などを提供します

図書館では、子どもたちと本を結ぶツールのひとつとして、広報誌の発行に力を入れています。そこで、新しく出版された本の中から、児童担当職員がおすすめする本を選んで紹介する「本は王さま」、小学生向けの読書案内新聞である「としょ丸しんぶん」、10代におくるブックガイド「はぴ」、また各館においては独自の広報誌を積極的に発行するなど、本に関する情報を発信していきます。

中央図書館に、さいたま市ゆかりの児童書を収集し、作家を紹介していきます

さいたま市は、子どもたちが本を読む喜びや楽しさを知り、子どもたちと本を結びつけるために大きな足跡を残した石井桃子^{*5}と瀬田貞二^{*6}などのゆかりの地です。

「さいたまゆかり」コーナーに、石井桃子と瀬田貞二を中心とした、ゆかりの作家の著書を収集・展示し、そのデータベースの充実を図ります。また、ゆかりの作家の紹介に努めます。

障害のある子どもや、日本語を母国語としない子どもへのサービスを充実します

図書館を利用する際に、障害のある子どもたちに、障害に応じた読書サービスを行います。点字図書やテープ図書の充実、ボランティア団体による点訳絵本の作製などをすすめていきます。また、障害児施設、養護施設等に個人向け・団体向けの利用案内を送付し、利用を働きかけていきます。

日本語を母語としない子どもへのサービスとしては、外国語資料の充実や、

*5「石井桃子(いしいももこ)」（明治40年～平成20年）児童文学作家、翻訳家。旧浦和市に生まれる。すぐれた創作や翻訳を通して、戦後日本の児童文学の発展と子どもの読書活動を牽引してきた第一人者です。

主な著書：「ノンちゃん雲に乗る」「子どもの図書館」「児童文学の旅」「幼ものがたり」「幻の朱い実」などです。

主な翻訳：「クマのプーさん」「ムギと王さま」「ピーターラビットのおはなし」などです。

*6「瀬田貞二(せたていじ)」（大正5年～昭和54年）翻訳家、児童文学作家、評論家。旧浦和市の自宅を瀬田文庫として開放し、地域の子供たちに本の楽しさを伝えました。

主な著書：「きょうはなんのひ?」「幼い子の文学」「落穂ひろい」「絵本論」「児童文学論」などです。

主な翻訳：「ホビットの冒険」「ナルニア国ものがたり」「指輪物語」などです。

多言語によるおはなし会を開催していきます。

児童担当職員の養成に努めます

児童を担当する図書館員は、児童書についての幅広い知識と、読み聞かせなど、本に親しんでもらうための技術を身につける必要があります。

子どもにも保護者にも信頼される図書館員になるため、新任児童担当職員研修や児童奉仕研修会（主催：埼玉県図書館協会）・児童図書館員養成講座（主催：社団法人日本図書館協会）などへの参加や自主研修などにより、資質の向上に努めます。

関係機関との連携を深めます

ア 学校図書館との連携

学校図書館支援センターを設置し、学校図書館の蔵書を補ったり、学校図書館では解決できないレファレンスに対応したりするため、つぎのようなサービスを行っています。

学校図書館向け図書の収集および団体貸出

レファレンス、所蔵調査

本に関する情報の発信（全小学校の新1年生に配布する読書啓発パンフレット「子どもと本」やブックリスト・資料リストなど印刷物の発行、学校図書館向け資料の情報提供）

ブックトーク^{*7}、読み聞かせなどを行う学校訪問

図書館オリエンテーション^{*8}の実施

大型団体貸出^{*9}

職場体験学習の受入

*7「ブックトーク」

あるテーマの下で、複数の本を選び、それらの本をつないで順に紹介していくことです。

*8「図書館オリエンテーション」

児童・生徒に、図書館の利用のしかたや、図書の分類などについて説明することです。

*9「大型団体貸出」

学校図書館や学級文庫などの充実のために、読み物を中心とした本を、1回につき600冊以内、1年間貸し出します。市内の学校などに向けたサービスです。

イ 保育所・幼稚園などとの連携

図書館は、訪れる子どもを受け入れるだけでなく、保育所・幼稚園訪問や団体貸出などを実施し、図書館経験のない子どもに図書館を実感できるような機会を設けています。ストーリーテリング^{*10} やパネルシアター^{*11}、人形劇などを行い、子どもたちにものがたりの世界の楽しさを伝え、本への関心を高めていきます。

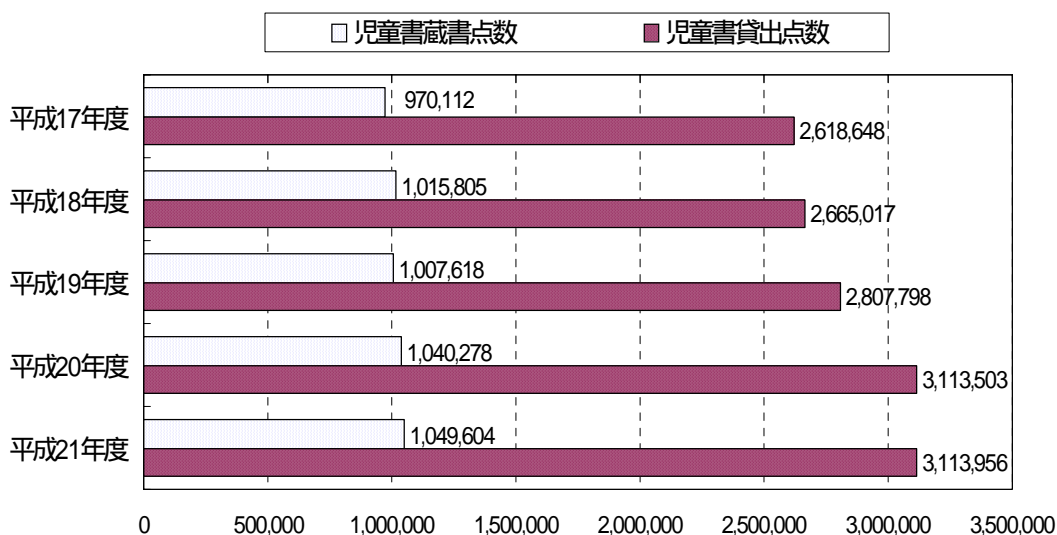
ウ 読書ボランティアの支援

平成22年度現在、さいたま市の図書館で活動する、子どもの読書に関するボランティアは、20グループあります。図書館では、これらの読書ボランティアグループとともに催し物等の活動をしたり、ボランティアグループに団体貸出を行ったりしています。

また、ボランティアを養成する講座を開催して、ボランティア希望者を育成しています。

今後も協働の推進という観点からも、ボランティアを育成するとともに資質の向上を図り、活動の充実と活性化に努めます。

参考資料：さいたま市立図書館 児童書の蔵書点数及び貸出点数の推移



*10 「ストーリーテリング」

語り手が物語を覚えて、子どもたちに語ること。「すばなし」、または単に「おはなし」とも言います。

*11 「パネルシアター」

パネル板に、不織布でつくった登場人物や背景を、貼ったり取ったりしながらおはなしを進めていく手法のことです。

(4) 学校での取り組み

楽しむ読書 ...	利用しやすい学校図書館を目指します 読書習慣の形成と自主的な読書活動の活性化に努めます
みんなで読書 ...	学校図書館を活用した授業など学習指導を充実します
支える読書 ...	学校図書館コンピュータの全校入替を行い、機能的な学校図書館の運営を支援します 図書資源の共有ネットワークを充実します 保護者や地域との連携による読書活動を推進します

利用しやすい学校図書館を目指します

子どもが自由に読書を楽しみ、読書に親しめるよう、魅力的で利用しやすい学校図書館にしていくため、図書の配架、新刊本の紹介、「さいたま市『心を潤すこの一冊』子ども100選」等の推薦図書の紹介など、環境整備に努めます。

また、各教科等の学習に活用できる資料を集めた学校図書館にしていくため、学校図書館利用のための掲示や資料コーナーの設置、室内のレイアウトなど環境整備に努めるとともに、各学校の創意工夫による特色ある蔵書整備や図書以外の資料の収集・整理などをすすめていきます。

読書習慣の形成と自主的な読書活動の活性化に努めます

各学校では、「さいたま市の子どもたちは日本で一番本が好き」をキャッチフレーズにして、子どもの読書への興味・関心を高めるために、全校一斉読書^{*12}に取り組むとともに、行事や読書週間などを生かした活動を展開しています。

各学校での取り組みには、「さいたま市『心を潤すこの一冊』子ども100選」の紹介や学校独自のおすすめの図書の選出、読み聞かせ、パネルシアター、ブックトーク、全校読書集会、読書郵便^{*13}、ブックウォーク^{*14}など、子どもたちが読書に親しむような様々な工夫が見られます。今後も、各学校の創意工夫による読書にかかわる行事を一層充実させ、読書習慣の形成に努めていきます。

*12「全校一斉読書」

始業前、授業中、昼休み、放課後のいずれかに校内一斉に読書をする時間を設け、各自で用意した本を自由に読む取り組みです。

*13「読書郵便」・14「ブックウォーク」については、次頁を参照してください。

また、図書委員会など、子どもの自主的な活動は、読書活動を推進するうえで、なくてはならないものです。図書だよりの発行、掲示物の作成、貸出・返却、書架の整理などの活動を、今後さらに支援していきます。

さいたま市立小・中学校「全校一斉読書」実施率（「学校調査」結果より）

	平成 20 年度	平成 21 年度	平成 22 年度
小学校	99%(100校/101校)	99%(101校/102校)	99%(101校/102校)
中学校	95%(54校/57校)	89%(51校/57校)	91%(52校/57校)
平均	97%(154校/158校)	96%(152校/159校)	96%(153校/159校)

学校図書館を活用した授業など学習指導を充実します

各学校では、司書教諭が中心となり、学校図書館司書と連携し、校内で協力体制を整えて学校図書館教育の推進にあたる必要があります。小学生・中学生・高校生、それぞれの発達段階に応じて、学校図書館を活用した調べ学習を一層推進するなどの取り組みが大切です。

全教職員が学校図書館の利活用や読書指導についての意識や能力を高め、学校図書館を活用した授業を積極的に行うことができるように、以下の取り組みを進めます。

司書教諭が中心となり、学校図書館司書と連携した学習指導ができるように校内体制を整備します。

各学校で、学校図書館教育の全体計画や年間指導計画を作成し、計画的な学校図書館の利活用を推進します。

優れた教育実践を集積して、司書教諭・学校図書館司書合同研修会で共有していくなど、学校図書館を活用した学習指導の充実に努めます。

学校図書館コンピュータの全校入替を行い、機能的な学校図書館の運営を支援します

蔵書検索や貸出・利用者管理などの迅速化、適正化による図書館業務の効率化を図るため、学校図書館コンピュータの入替を順次進め、平成 25 年度の全校整備終了を目指します。また、教育研究所 Web ページ内の「学校図書館司書支援ページ」の更新と充実を図っていきます。

*13「読書郵便」

読書紹介の形態の一つです。はがき形式の用紙等で、絵と言葉でお気に入りの本を紹介するものが一般的です。学校図書館にポストを設けたり、学級で回収したりして、相手に届けることから「読書郵便」と称しています。相手は家族や学級の友達、校内の他の学年の友達など様々です。さいたま市内の学校では、往復はがきを模した用紙を使用し、返事をもらう交流なども見られます。

*14「ブックウォーク」

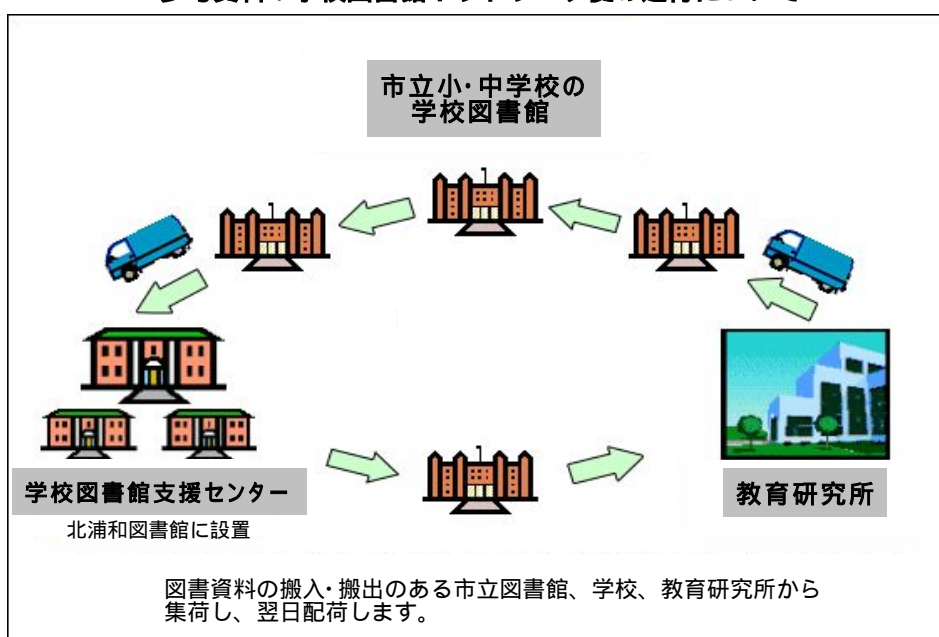
児童生徒が、読書についての目標を自分で設定し、自分のペースで読書を進める取り組みです。児童生徒は、自分なりに決めた読書の目標を宣誓書で示し、読書の記録を重ねていきます。目標に達成したときに認定証を発行することで児童生徒の励みになります。これと似ている取り組みに、期間や目標冊数を設定して取り組む読書マラソン等もあります。

図書資源の共有ネットワークを充実します

さいたま市では、学校図書館と学校図書館支援センター、教育研究所を結ぶ「学校図書館資源共有ネットワーク^{*15}」を運営しています。学校図書館支援センターからの団体貸出や学校間の蔵書の共同利用により、各学校では、必要な資料を十分に準備し、児童・生徒の充実した学習を可能にしています（下図「学校図書館ネットワーク便の運行について」を参照）。

今後は、各学校において特色ある蔵書整備を一層促進し、「学校図書館資源共有ネットワーク」の有効活用に努めます。

参考資料：学校図書館ネットワーク便の運行について



*15 「学校図書館資源共有ネットワーク」

文部科学省の地域指定事業による研究・実践から、さいたま市としてのシステムを確立しました。このシステムにより、学校図書館間、学校図書館支援センター、教育研究所等を結び、図書資料等の共同利用を可能にしています。主な取り組みは、以下のとおりです。

- 学校図書館司書(非常勤)の配置
- 学校図書館コンピュータの配置・管理
- 学校図書館ネットワーク便の運行
- 学校図書館支援センターとの連携

保護者や地域との連携による読書活動を推進します

学校における、保護者や地域のボランティアとの連携は、地域に根ざした学校図書館づくりのために重要なことです。現在、学校図書館の整備や読み聞かせ等、さまざまな活動が行われるようになってきています。

学校は、司書教諭を中心に、学校の実態に応じたボランティアのあり方を検討し、読書の啓発活動や学校図書館機能の充実に努めていきます。

ボランティアを活用している学校数の割合
(平成20年度「学校図書館の現状に関する調査」の結果より)

	さいたま市	全 国
小学校	86.1%	75.5%
中学校	8.8%	20.4%

(5) 保育所や幼稚園での取り組み

楽しむ読書 ...	絵本の読み聞かせを充実し、絵本に触れられる環境づくりに取り組みます
みんなで読書 ...	保護者へ本の大切さを発信します
支える読書 ...	地域との連携を深めます 保育士等の資質向上に努めます

絵本の読み聞かせを充実し、絵本に触れられる環境づくりに取り組みます

保育の中に、絵本等の読み聞かせの機会を多く作り、子どもたちが自由に絵本に触れられる環境や、表現することや想像する楽しさ、言葉や文字への関心を高める環境づくりに取り組みます。

保護者へ本の大切さを発信します

保護者には、園だより・クラスだより・懇談会などで、読み聞かせや絵本を通じた親子のかかわりの大切さを伝えるほか、絵本の紹介などもしていきます。

また、保護者の保育参加、1日保育士・幼稚園教諭体験等で保護者に絵本等の読み聞かせを体験してもらい、体験を通して子どもとのかかわりの楽しさを伝えます。

地域との連携を深めます

保育所では、子どもたちがたくさんの本に触れることができるよう、図書館や公民館を訪れて、読み聞かせ会などに参加したり、本を借り受けたりしているほか、地域のお話ボランティアの方を保育所に招いて、読み聞かせやすばなしを行っています。

また、保育所の地域支援事業として、園庭や子育て支援センターを会場に、子どもの年齢にあわせた絵本の紹介、パネルシアター、ペープサート（紙人形劇）などを通じて、地域の保護者に、おはなしや絵本の楽しさを伝えていきます。

保育士等の資質向上に努めます

読み聞かせや、絵本環境の整備・充実に関する研修会を開催し、保育士等の子ども読書に関する知識と理解を深めます。

3 読書活動を推進するための普及啓発

(1) 広報・啓発の推進

子ども読書の日

「子ども読書の日」*¹⁶(4月23日)は、子どもの読書活動についての関心と理解を深めるとともに、子どもが積極的に読書活動を行う意欲を高めるために設けられています。

さいたま市においても、この時期に、子どもが本に親しめるような事業を、各施設・学校などで開催し、広報・啓発に努めます。

図書館においては、平成22年度には、「子ども読書の日」に関する取り組みとして、13の図書館ではなし会や本の展示・子ども向け図書館探検ツアーなど17の事業が実施されました。

また、各学校においては、「子ども読書の日」を中心に、読書朝会や子ども読書祭りなどのイベント、全校一斉読書、図書だより等の発行など、子どもたちの読書意欲を高めるような取り組みを行っています。

保護者・地域ボランティアや学校図書館司書、担任による読み聞かせやブックトークなど、司書教諭を中心とした校内における取り組みについて一層の充実に努めます。

「子ども読書の日」の取り組み実施率(「『子ども読書の日』に関する調査」より)

	平成21年度	平成22年度
小学校	100%(102校/102校)	100%(102校/102校)
中学校	89%(51校/57校)	91%(52校/57校)

一日図書館員

子どもたちが自立した読書活動を行うことができるように、本との豊富な出会いを提供します。「一日図書館員」として、子どもたちが自ら、本の貸し出し、本の読み聞かせをする、調べ物をするという体験を通して、読書の楽しさや大切さを理解することができます。図書館に対する関心も高まり、利用の促進に結びついていきます。

*16「子ども読書の日」

子どもが積極的に読書活動を行う意欲を高めるため、「子ども読書活動の推進に関する法律」第10条で、4月23日を「子ども読書の日」と定めています。

図書館ホームページでの情報提供

図書館のホームページに「としょ丸」(こどもの本のページ)と「10代のページ」を掲載しています。

子ども向けの「としょ丸」では、図書館の施設情報、利用案内、イベントや、おすすめ本の紹介(「本は王さま」)などの情報を提供していきます。

また、「10代のページ」では、図書館の利用案内のほか、ブックガイド「はぴ」を掲載し、テーマ別の推薦図書などの情報を提供していきます。

(2) 関係機関との連携

より効果的に子どもの読書活動を進めていくためには、読書活動に関わる施設や関係者がそれぞれの役割を担い、また、情報交換や交流をとおして連携・協力することが必要です。

図書館では、学校図書館向け図書の収集やレファレンス対応、ブックトークや読み聞かせなどを行う学校訪問、おはなしやパネルシアターを行う保育所や幼稚園訪問など、さまざまな取り組みを行っています。

また、学校図書館支援センターと学校図書館間において図書の運搬ネットワーク便を運行することにより、図書資源の共有化を図っています。

関係機関が連携・協力を深めるとともに、子どもの読書に関するボランティアとの協働や、ボランティアの育成支援を推進するなど、みんなで子どもの読書活動を支援していきます。

(3) 子ども読書アンケートの実施

さいたま市の子どもたちの読書状況や傾向を知るため、市内の小学生・中学生・高校生を対象に、子ども読書アンケートを実施します。

その調査結果をひとつの指標ととらえ、本計画の施策・事業、及び関係機関の取り組みに反映させ、子どもの読書活動への理解を深めるよう努めていきます。

また、アンケート調査の結果については、市のホームページで公表します。

第4章 資料編

1 「読書についてのアンケート調査」について

(1) 趣旨

本調査は、さいたま市における子ども読書活動の実態を把握するとともに、読書活動を推進するための基礎資料とするため、平成17年度から毎年実施しているものです。本調査でいう「本」とは、教科書、学習参考書、マンガ、雑誌などを除きます。

(2) 調査対象

調査対象は、さいたま市立学校に在籍する小学校4年生から高校3年生までとしています。小・中学校については、10校を抽出、高校については、全4校で実施しており、抽出された学校は、各年度とも同一校で実施しています。

< 各年度調査対象者数 >

(単位:人)

	学 年	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
小学校	4年生	144	263	273	271	265	279
	5年生	147	282	264	267	261	269
	6年生	138	281	268	263	247	268
	小学校計	429	826	805	801	773	816
中学校	1年生	136	271	282	283	268	281
	2年生	138	266	268	280	261	266
	3年生	136	270	274	262	258	277
	中学校計	410	807	824	825	787	824
高等学校	1年生	158	320	305	316	307	305
	2年生	156	299	320	301	310	304
	3年生	150	307	280	305	299	305
	高校計	464	926	905	922	916	914
総 計		1,303	2,559	2,534	2,548	2,476	2,554

17年度は各学年4学級で実施。18年度以降は各学年8学級で実施。

(3) 調査項目

【質問1】あなたは本を読むことが好きですか。

【質問2-1】あなたが小さいとき、家の人や保育園、幼稚園の先生などに本を読んでもらったことがありますか。

【質問2-2】あなたは、最近(1年くらい前～今日)家や学校などで読み聞かせをしてもらったことがありますか。

【質問3】あなたは本を読むとき、どこで読むことが多いですか。

【質問4-1】あなたはどんなきっかけで、本を読むことが多いですか。

【質問4-2】あなたは本を読むとき、誰にすすめられることが多いですか。

【質問4-3】あなたは本を読むとき、その本をどのようにして手に入れることが多いですか。

【質問5】あなたが、本を読むのはどうしてですか。

【質問6】あなたは最近1ヶ月間に、本を何冊ぐらい読みましたか。

【質問7】今までの学校の一斉読書の時間をきっかけとして、本を読む時間や回数が増えましたか。

【質問8】あなたは、この1年間に公共の図書館に何回ぐらい行ったことがありますか。

【質問9】学校図書館や公共の図書館などで本を借りるとき、どのような本を借りますか。

(4) アンケート調査結果について

平成 17 年度から平成 22 年度までの調査結果は、以下のとおりです。

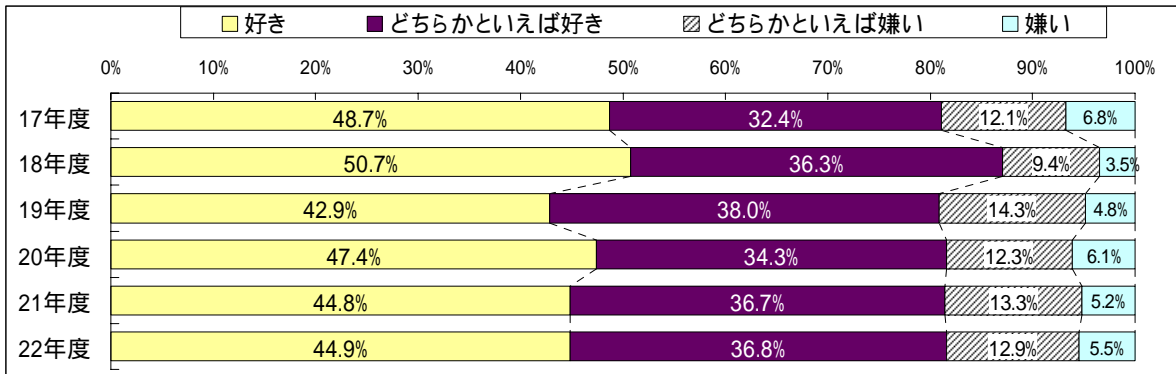
【質問 1】あなたは本を読むことが好きですか。

(単位:人)

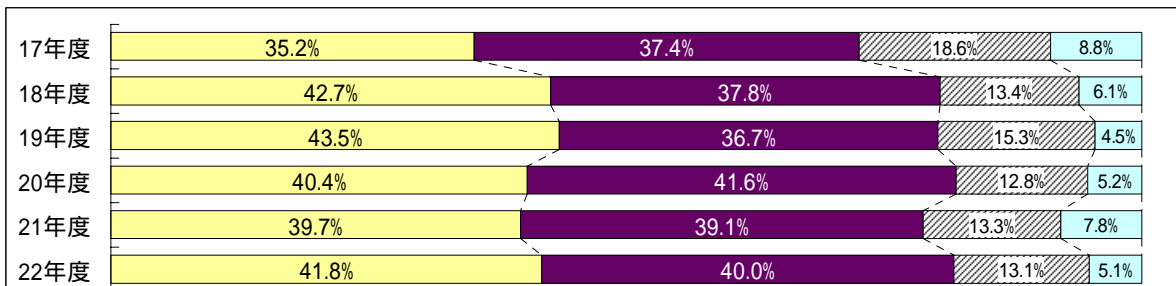
		好き	どちらかとい えば好き	どちらかとい えば嫌い	嫌い	計 (回答者数)
		小学生	17 年度	209	139	52
	18 年度	419	300	78	29	826
	19 年度	345	306	115	39	805
	20 年度	379	274	98	49	800
	21 年度	346	283	103	40	772
	22 年度	366	300	105	45	816
中学生		好き	どちらかとい えば好き	どちらかとい えば嫌い	嫌い	計 (回答者数)
	17 年度	144	153	76	36	409
	18 年度	343	304	108	49	804
	19 年度	358	302	126	37	823
	20 年度	332	342	105	43	822
	21 年度	310	305	104	61	780
	22 年度	344	329	108	42	823
高校生		好き	どちらかとい えば好き	どちらかとい えば嫌い	嫌い	計 (回答者数)
	17 年度	142	174	107	39	462
	18 年度	323	349	176	76	924
	19 年度	323	372	150	57	902
	20 年度	324	366	173	55	918
	21 年度	314	388	160	52	914
	22 年度	308	377	156	69	910
計		好き	どちらかとい えば好き	どちらかとい えば嫌い	嫌い	計 (回答者数)
	17 年度	495	466	235	104	1,300
	18 年度	1,085	953	362	154	2,554
	19 年度	1,026	980	391	133	2,530
	20 年度	1,035	982	376	147	2,540
	21 年度	970	976	367	153	2,466
	22 年度	1,018	1,006	369	156	2,549

【質問1】あなたは本を読むことが好きですか。

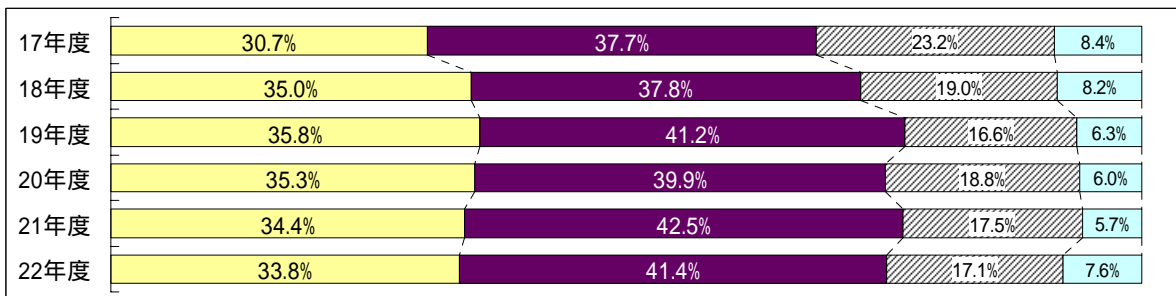
【小学生】



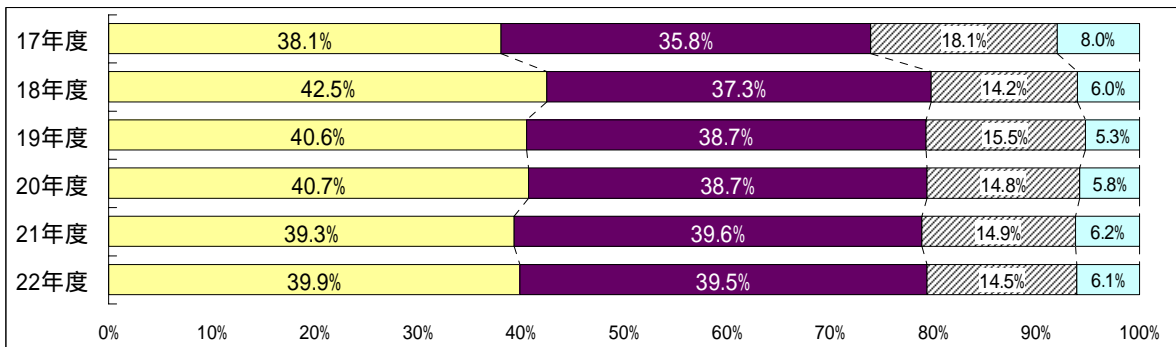
【中学生】



【高校生】



【小・中・高校生計】



「好き」と「どちらかといえば好き」を合わせると、小・中・高校生全体としては、およそ8割の子どもが好きと回答している。

調査開始の17年度と22年度を比較すると、小学生ではほとんど変化は見られないものの、中学生では9.2%、高校生では6.9%増加している。

しかし、はっきり「好き」と回答した割合(22年度)は、小学生では44.9%、中学生では41.8%、高校生では34.0%であり、成長するにつれて減少している。

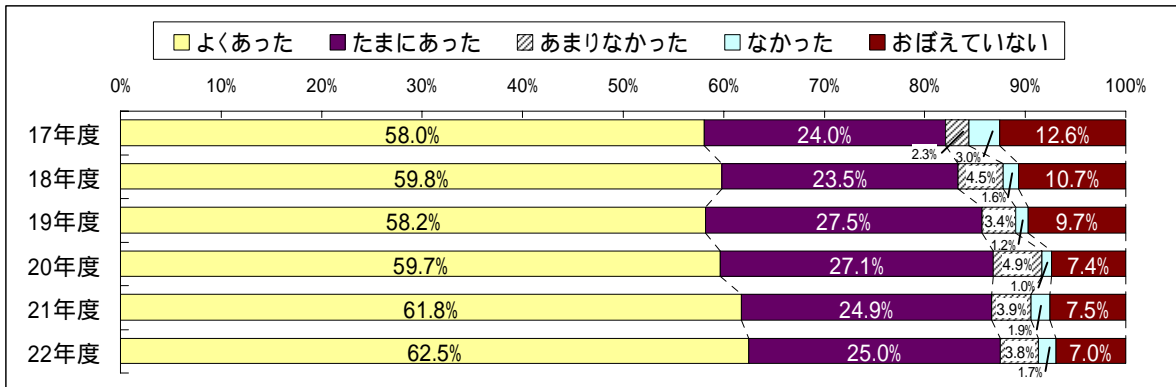
【質問2 - 1】あなたが小さいとき、家の人や保育園、幼稚園の先生などに本を読んでもらったことがありますか。

(単位:人)

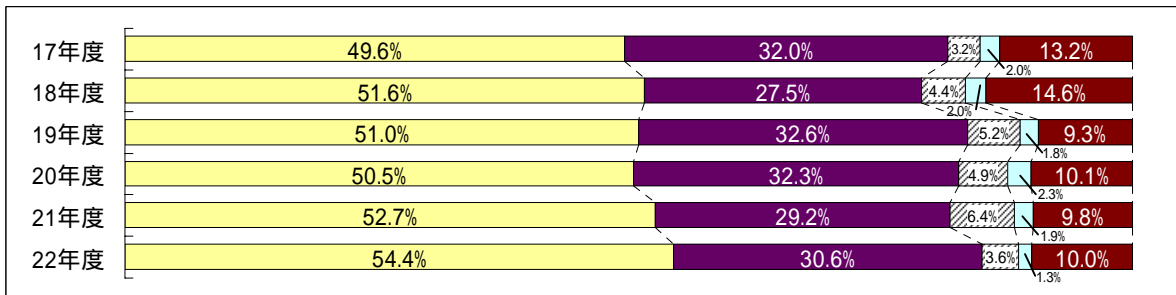
		よくあった	たまにあった	あまりなかった	なかった	おぼえていない	計 (回答者数)
		小学生	17年度	249	103	10	13
	18年度	494	194	37	13	88	826
	19年度	468	221	27	10	78	804
	20年度	478	217	39	8	59	801
	21年度	477	192	30	15	58	772
	22年度	510	204	31	14	57	816
中学生		よくあった	たまにあった	あまりなかった	なかった	おぼえていない	計 (回答者数)
	17年度	203	131	13	8	54	409
	18年度	414	221	35	16	117	803
	19年度	420	269	43	15	77	824
	20年度	416	266	40	19	83	824
	21年度	413	229	50	15	77	784
	22年度	448	252	30	11	82	823
高校生		よくあった	たまにあった	あまりなかった	なかった	おぼえていない	計 (回答者数)
	17年度	231	156	22	9	45	463
	18年度	486	276	32	24	107	925
	19年度	428	326	65	20	64	903
	20年度	461	313	64	19	64	921
	21年度	445	310	66	21	74	916
	22年度	456	332	52	15	57	912
計		よくあった	たまにあった	あまりなかった	なかった	おぼえていない	計 (回答者数)
	17年度	683	390	45	30	153	1,301
	18年度	1,394	691	104	53	312	2,554
	19年度	1,316	816	135	45	219	2,531
	20年度	1,355	796	143	46	206	2,546
	21年度	1,335	731	146	51	209	2,472
	22年度	1,414	788	113	40	196	2,551

【質問2 - 1】あなたが小さいとき、家の人や保育園、幼稚園の先生などに本を読んでもらったことがありますか。

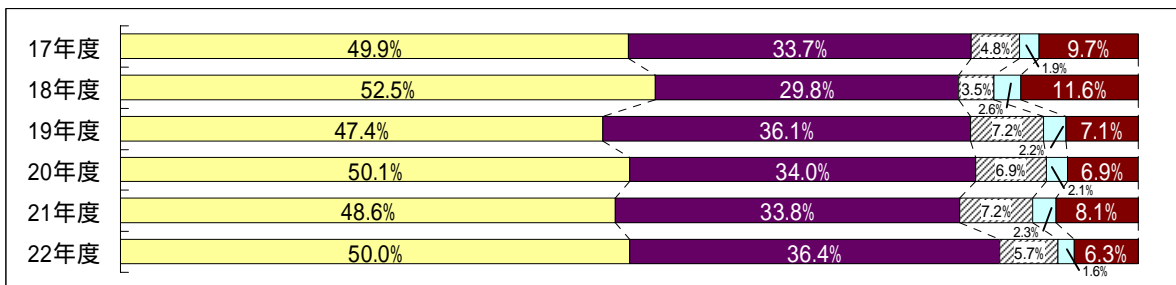
【小学生】



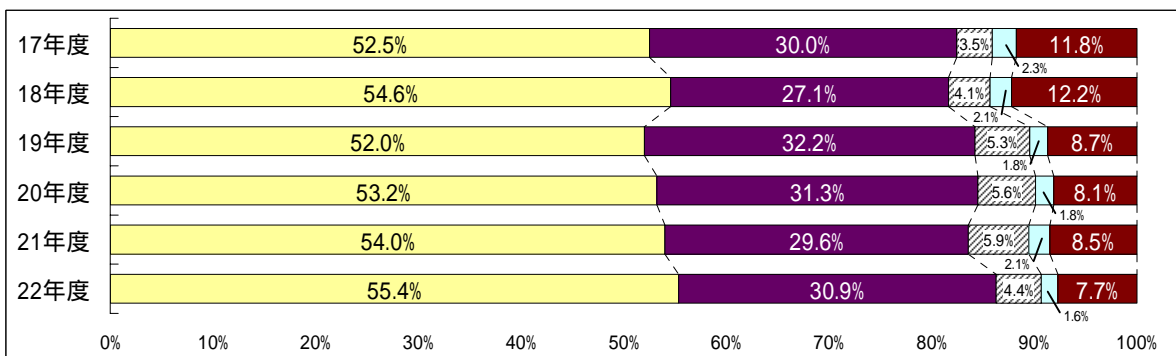
【中学生】



【高校生】



【小・中・高校生計】



「よくあった」と「たまにあった」を合わせると、小・中・高校生全体としては、8割を超えており、それぞれの違いはあまり見られない。

はっきり「なかった」と回答した割合は、およそ2%前後となっている。

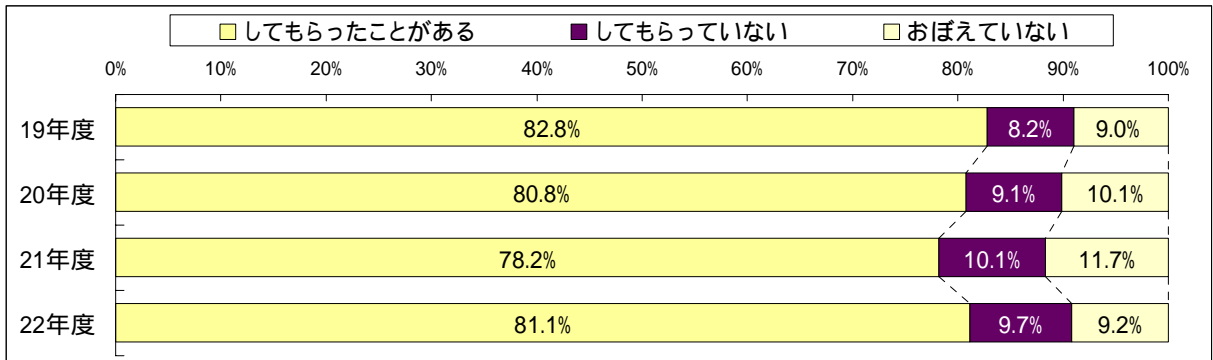
【質問2 - 2】あなたは、最近（1年くらい前～今日）家や学校などで読み聞かせをしてもらったことがありますか。（19年度からの設問）

（単位：人）

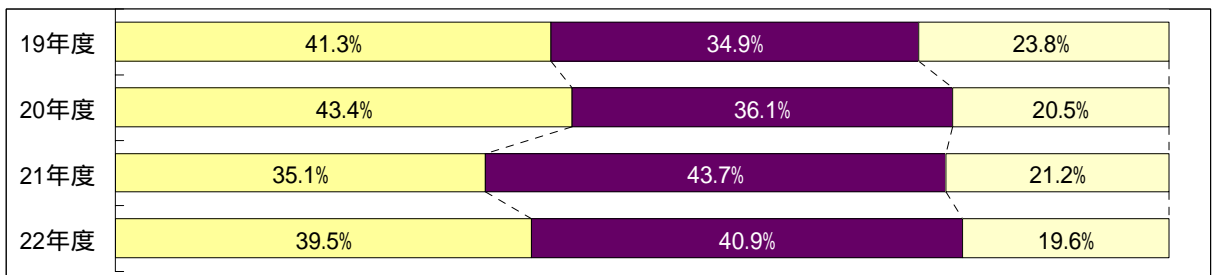
		してもらったことがある	してもらっていない	おぼえていない	計 (回答者数)
		小学生	19年度	665	66
	20年度	646	73	81	800
	21年度	602	78	90	770
	22年度	661	79	75	815
中学生		してもらったことがある	してもらっていない	おぼえていない	計 (回答者数)
	19年度	339	286	195	820
	20年度	357	297	169	823
	21年度	275	342	166	783
	22年度	324	336	161	821
高校生		してもらったことがある	してもらっていない	おぼえていない	計 (回答者数)
	19年度	70	683	147	900
	20年度	56	740	121	917
	21年度	48	746	119	913
	22年度	89	722	99	910
計		してもらったことがある	してもらっていない	おぼえていない	計 (回答者数)
	19年度	1,074	1,035	414	2,523
	20年度	1,059	1,110	371	2,540
	21年度	925	1,166	375	2,466
	22年度	1,074	1,137	335	2,546

【質問2 - 2】あなたは、最近（1年くらい前～今日）家や学校などで読み聞かせをしてもらったことがありますか。（19年度からの設問）

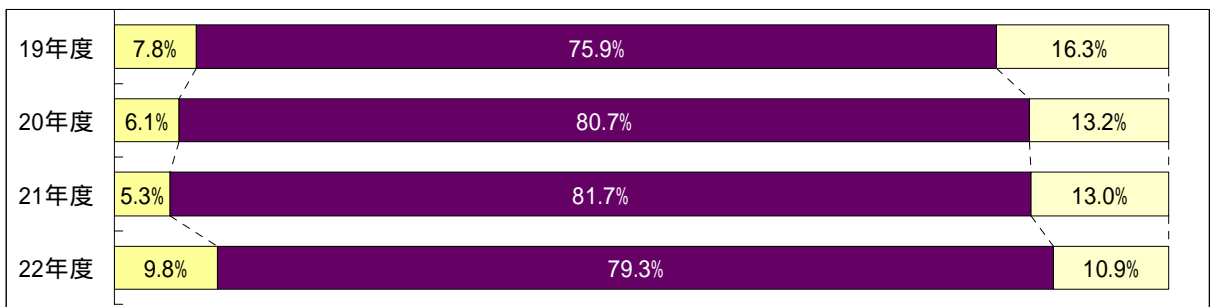
【小学生】



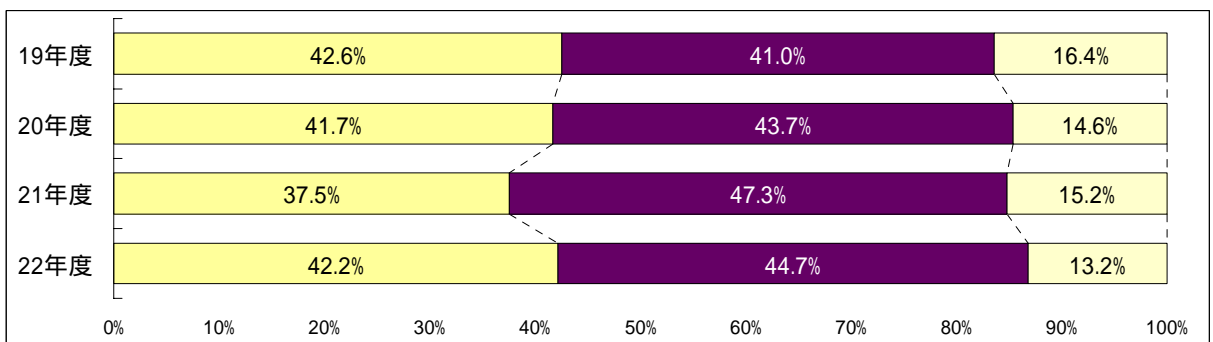
【中学生】



【高校生】



【小・中・高校生計】



「してもらったことがある」と回答した割合は、小学生ではおよそ8割、中学生ではおよそ4割、高校生では1割以下となっている。

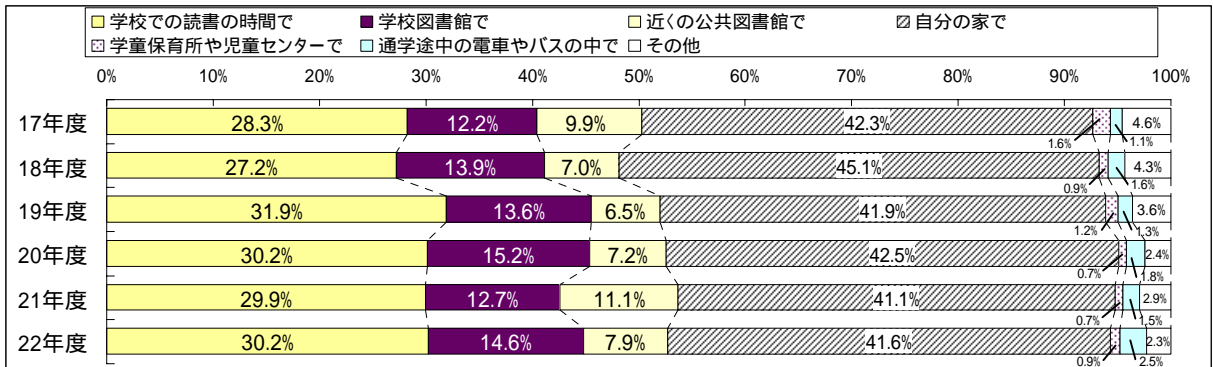
読み聞かせの関連事業が、主に低年齢層の児童を対象としていることが推察できる。

【質問3】あなたは本を読むとき、どこで読むことが多いですか。2つまで選んでください。

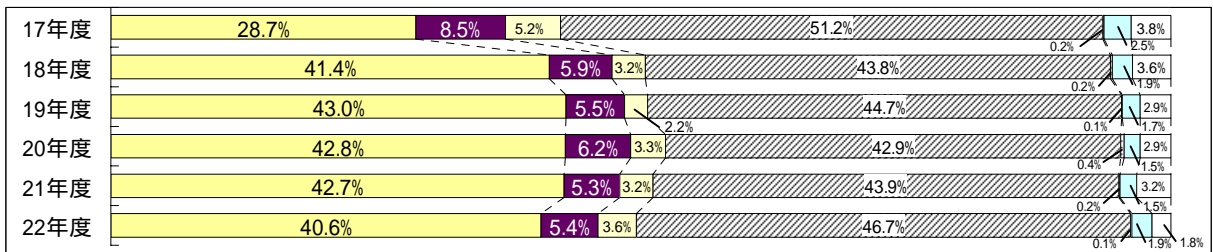
		学校での読書の時間で	学校図書館で	近くの公共図書館で	自分の家で	学童保育所や児童センターで	通学途中の電車やバスの中で	その他	計 (回答者数)	
		小学生	17年度	223	96	78	334	13	9	36
	18年度	414	212	107	686	13	24	66	1,522	
	19年度	458	195	93	601	17	19	52	1,435	
	20年度	423	213	101	596	10	25	34	1,402	
	21年度	407	172	151	558	10	21	40	1,359	
	22年度	440	212	115	606	13	36	34	1,456	
中学生		学校での読書の時間で	学校図書館で	近くの公共図書館で	自分の家で	学童保育所や児童センターで	通学途中の電車やバスの中で	その他	計 (回答者数)	
		17年度	183	54	33	326	1	16	24	637
		18年度	548	78	42	581	3	25	48	1,325
		19年度	592	76	30	616	1	23	40	1,378
		20年度	578	84	44	579	5	20	39	1,349
		21年度	526	65	39	540	2	19	40	1,231
		22年度	546	72	48	628	1	25	24	1,344
高校生		学校での読書の時間で	学校図書館で	近くの公共図書館で	自分の家で	学童保育所や児童センターで	通学途中の電車やバスの中で	その他	計 (回答者数)	
		17年度	29	33	29	420	1	63	22	597
		18年度	87	63	61	821	4	155	52	1,243
		19年度	77	31	45	819	1	177	34	1,184
		20年度	68	32	56	824	2	181	33	1,196
		21年度	83	22	58	821	2	168	30	1,184
		22年度	99	31	62	792	4	146	17	1,151
計		学校での読書の時間で	学校図書館で	近くの公共図書館で	自分の家で	学童保育所や児童センターで	通学途中の電車やバスの中で	その他	計 (回答者数)	
		17年度	435	183	140	1,080	15	88	82	2,023
		18年度	1,049	353	210	2,088	20	204	166	4,090
		19年度	1,127	302	168	2,036	19	219	126	3,997
		20年度	1,069	329	201	1,999	17	226	106	3,947
		21年度	1,016	259	248	1,919	14	208	110	3,774
		22年度	1,085	315	225	2,026	18	207	75	3,951

【質問3】あなたは本を読むとき、どこで読むことが多いですか。2つまで選んでください。

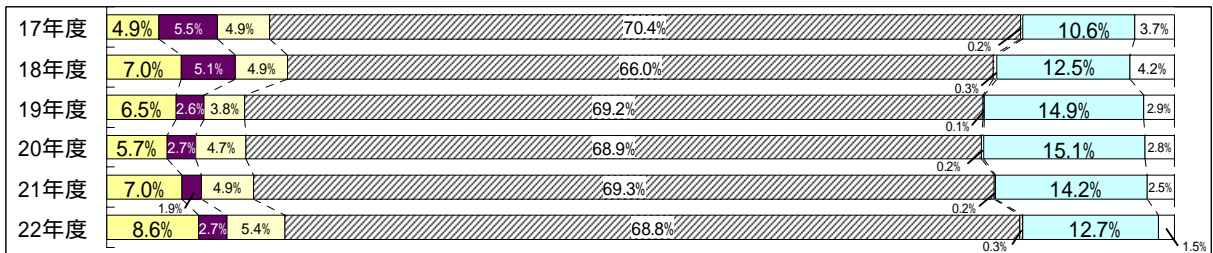
【小学生】



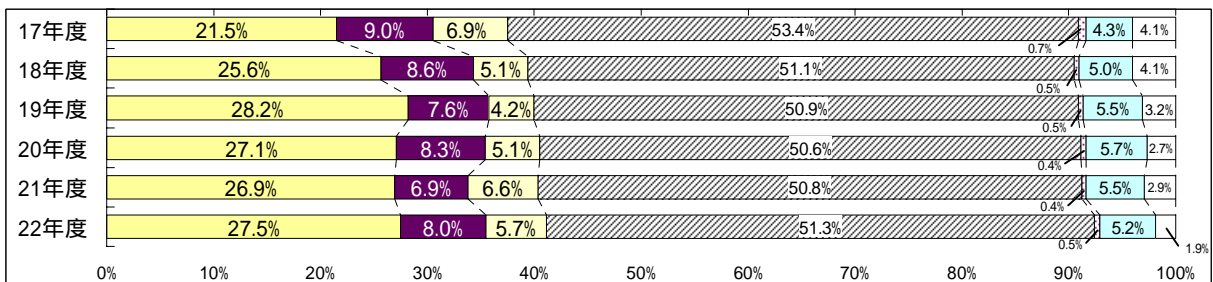
【中学生】



【高校生】



【小・中・高校生計】



小・中・高校生のいずれにおいても、「自分の家で」と回答した割合が最も高くなっている。

また、「学校での読書の時間で」と回答した高校生の割合は、小・中学生と比較すると、大幅に低いものとなっている（高等学校においては、全校一斉読書未実施のため）。

「学校図書館で」、「公共図書館で」と回答した中学生の割合(22年度)は、小学生と比較して、それぞれ約3分の1、約2分の1に減少している。

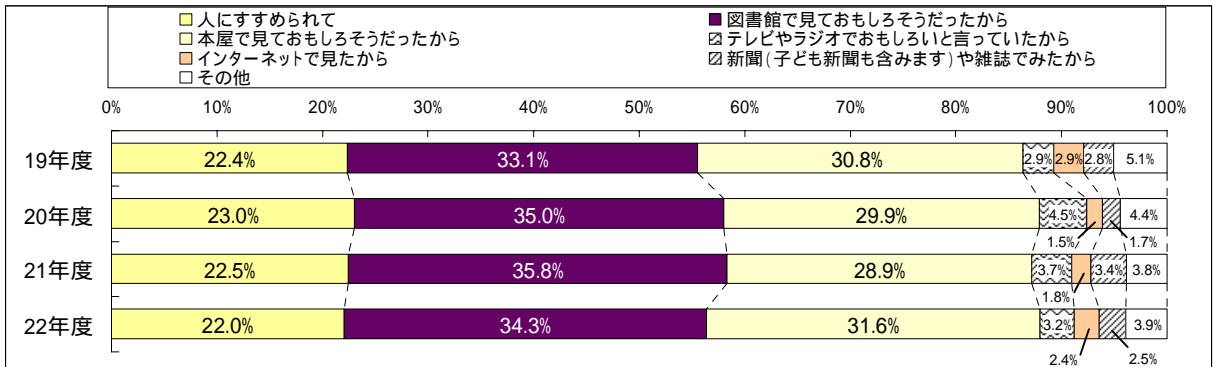
また、高校生では「学校」や「図書館」で本を読むことが少なくなり、「自分の家」や「通学途中」で本を読むことが多くなっている。

【質問4 - 1】あなたはどんなきっかけで、本を読むことが多いですか。2つまで選んでください。

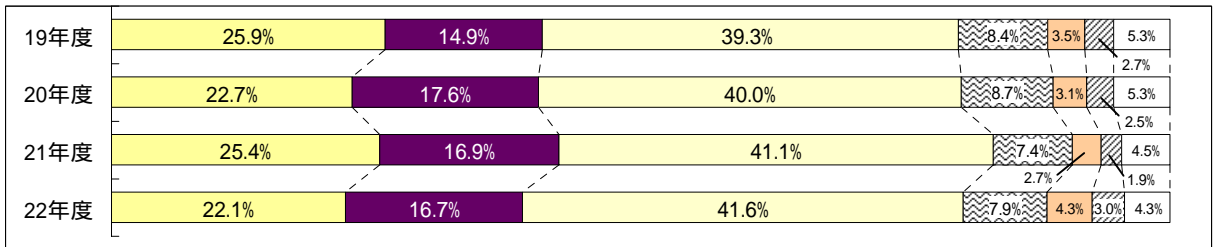
		人にすすめられて	図書館で見て面白そうだったから	本屋で見て面白そうだったから	テレビやラジオで面白いと言っていたから	インターネットで見たら	新聞(子ども新聞も含む)や雑誌で見たら	その他	計 (回答者数)
		小学生	19年度	300	444	413	39	39	37
	20年度	314	477	408	61	21	23	60	1,364
	21年度	295	471	380	49	24	45	50	1,314
	22年度	306	478	440	45	34	35	54	1,392
中学生		人にすすめられて	図書館で見て面白そうだったから	本屋で見て面白そうだったから	テレビやラジオで面白いと言っていたから	インターネットで見たら	新聞(子ども新聞も含む)や雑誌で見たら	その他	計 (回答者数)
	19年度	350	201	532	114	47	37	72	1,353
	20年度	306	237	538	117	42	34	72	1,346
	21年度	314	209	508	92	34	24	56	1,237
	22年度	293	222	552	105	57	40	57	1,326
高校生		人にすすめられて	図書館で見て面白そうだったから	本屋で見て面白そうだったから	テレビやラジオで面白いと言っていたから	インターネットで見たら	新聞(子ども新聞も含む)や雑誌で見たら	その他	計 (回答者数)
	19年度	347	122	546	229	38	40	61	1,383
	20年度	318	123	595	248	46	40	66	1,436
	21年度	295	133	601	213	47	38	68	1,395
	22年度	297	139	553	208	64	24	46	1,331
計		人にすすめられて	図書館で見て面白そうだったから	本屋で見て面白そうだったから	テレビやラジオで面白いと言っていたから	インターネットで見たら	新聞(子ども新聞も含む)や雑誌で見たら	その他	計 (回答者数)
	19年度	997	767	1,491	382	124	114	201	4,076
	20年度	938	837	1,541	426	109	97	198	4,146
	21年度	904	813	1,489	354	105	107	174	3,946
	22年度	896	839	1,545	358	155	99	157	4,049

【質問4 - 1】あなたはどんなきっかけで、本を読むことが多いですか。2つまで選んでください。

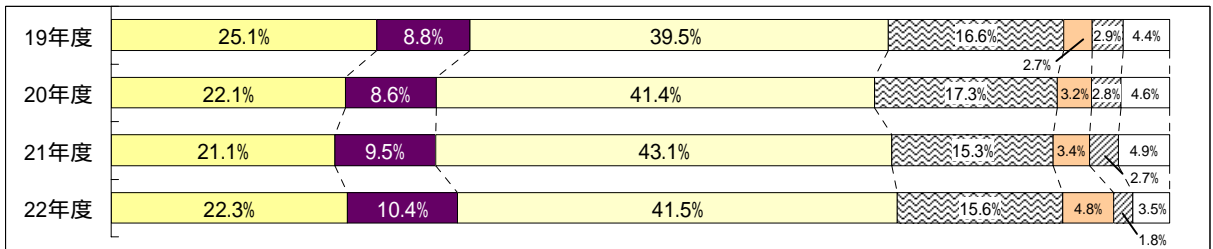
【小学生】



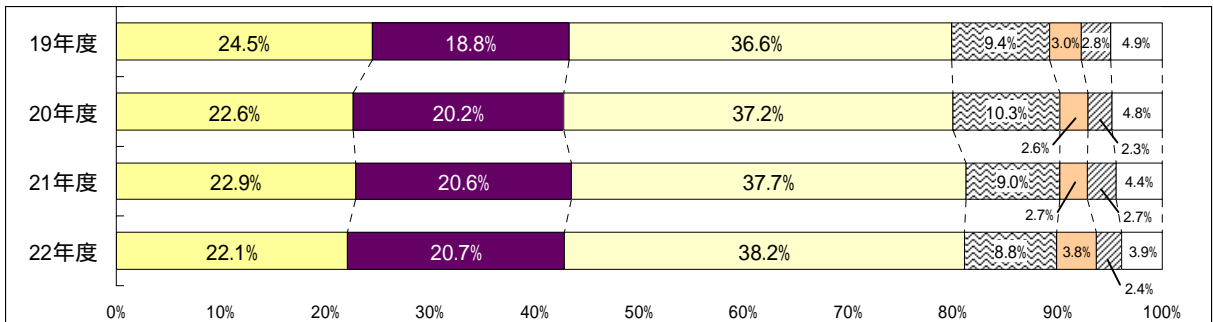
【中学生】



【高校生】



【小・中・高校生計】



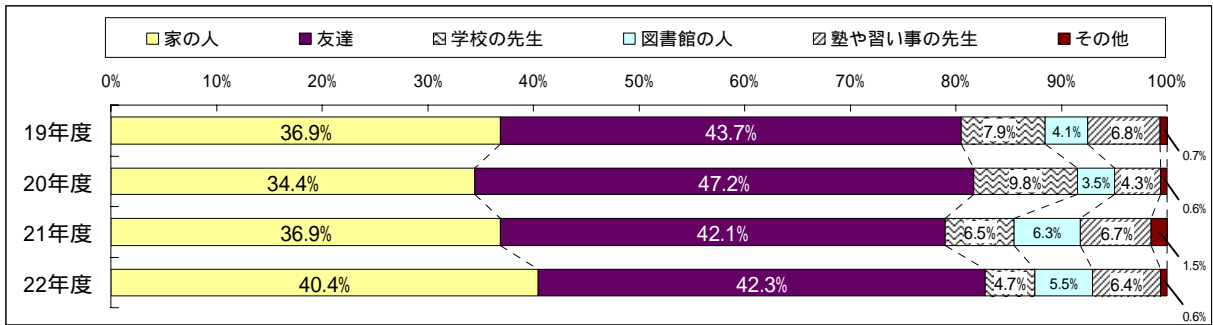
小学生では「図書館で見て」と回答した割合が最も高くなっているが、中・高校生では「本屋で見て」と回答した割合が最も高くなっている。成長するにつれて「図書館で見て」と回答した割合は減少し、「本屋で見て」、「テレビやラジオで」と回答した割合が増加している。

【質問4 - 2】質問4 - 1で「1.人にすすめられて」と答えた人にお聞きします。あなたは本を読むとき、誰にすすめられることが多いですか。2つまで選んでください。

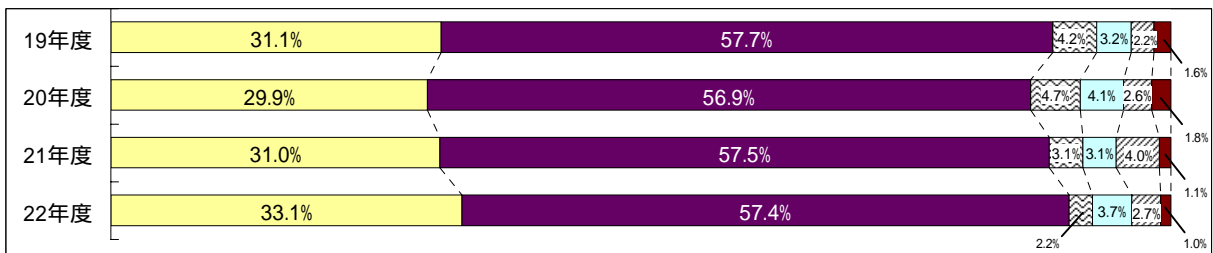
		家の人	友達	学校の先生	図書館の人	塾や習い事の先生	その他	計 (回答者数)
		小学生	19年度	163	193	35	18	30
	20年度	175	240	50	18	22	3	508
	21年度	176	201	31	30	32	7	477
	22年度	190	199	22	26	30	3	470
中学生		家の人	友達	学校の先生	図書館の人	塾や習い事の先生	その他	計 (回答者数)
	19年度	156	289	21	16	11	8	501
	20年度	147	280	23	20	13	9	492
	21年度	138	256	14	14	18	5	445
	22年度	135	234	9	15	11	4	408
高校生		家の人	友達	学校の先生	図書館の人	塾や習い事の先生	その他	計 (回答者数)
	19年度	127	298	29	6	9	6	475
	20年度	141	264	35	6	11	8	465
	21年度	112	238	15	4	11	1	381
	22年度	128	240	14	4	13	1	400
計		家の人	友達	学校の先生	図書館の人	塾や習い事の先生	その他	計 (回答者数)
	19年度	446	780	85	40	50	17	1,418
	20年度	463	784	108	44	46	20	1,465
	21年度	426	695	60	48	61	13	1,303
	22年度	453	673	45	45	54	8	1,278

【質問4 - 2】質問4 - 1で「1.人にすすめられて」と答えた人にお聞きします。あなたは本を読むとき、誰にすすめられることが多いですか。2つまで選んでください。

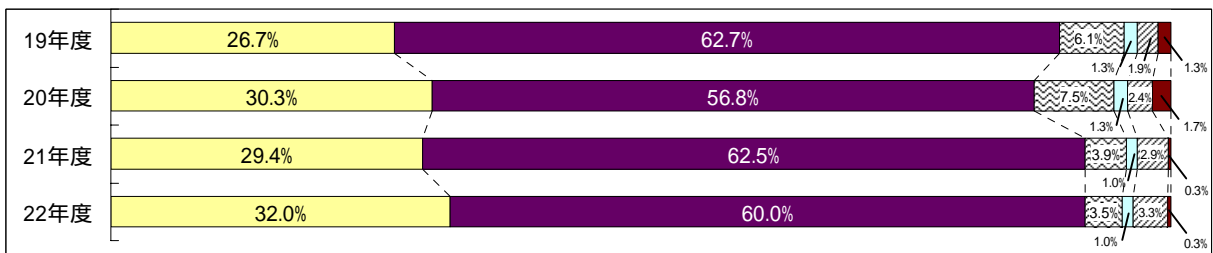
【小学生】



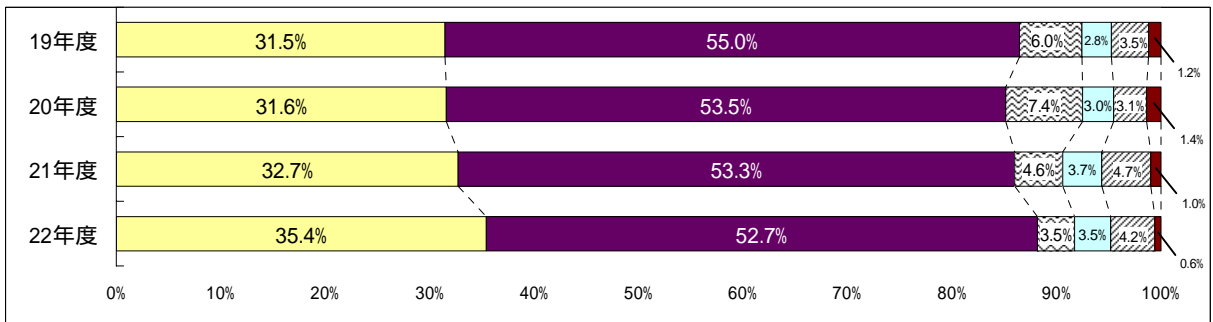
【中学生】



【高校生】



【小・中・高校生計】



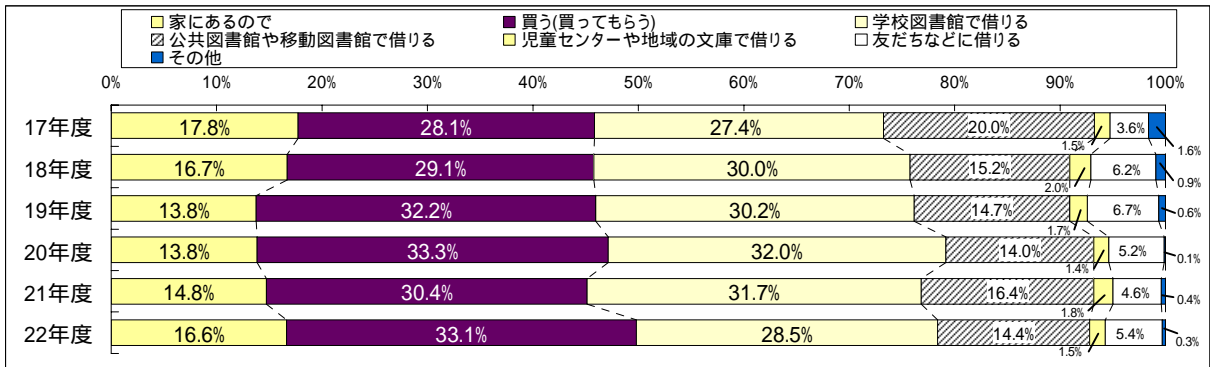
小・中・高校生のいずれにおいても、「友達」と回答した割合が最も高くなっている。「家の人」と回答した割合と比較すると、小学生ではあまり大きな差は見られないが、中・高校生では2倍近い差が見られる。

【質問4 - 3】あなたは本を読むとき、その本をどのようにして手に入れることが多いですか。2つまで選んでください。

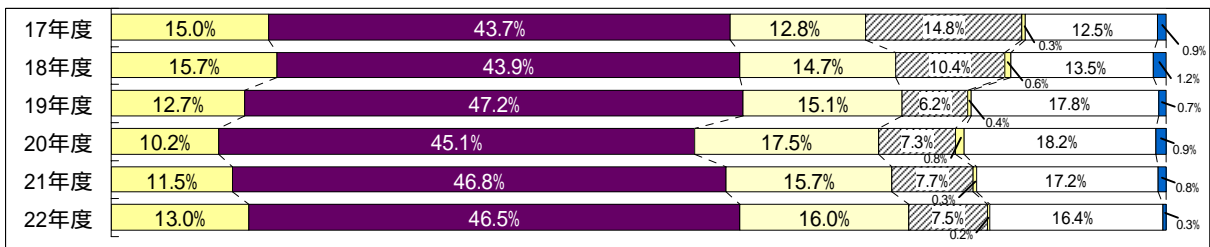
		家にあるので	買う(買ってもらう)	学校図書館で借りる	公共図書館や移動図書館で借りる	児童センターや地域の文庫で借りる	友達などに借りる	その他	計 (回答者数)
		小学生	17年度	142	225	219	160	12	29
	18年度	254	443	456	231	30	94	14	1,522
	19年度	192	448	421	205	24	94	9	1,393
	20年度	195	470	452	198	20	74	2	1,411
	21年度	204	420	438	227	25	64	5	1,383
	22年度	240	478	411	208	22	78	5	1,442
		家にあるので	買う(買ってもらう)	学校図書館で借りる	公共図書館や移動図書館で借りる	児童センターや地域の文庫で借りる	友達などに借りる	その他	計 (回答者数)
		中学生	17年度	105	307	90	104	2	88
	18年度	218	611	205	144	8	188	17	1,391
	19年度	174	649	207	85	5	244	10	1,374
	20年度	140	621	241	100	11	251	13	1,377
	21年度	148	604	203	100	4	222	10	1,291
	22年度	182	651	224	105	3	230	4	1,399
		家にあるので	買う(買ってもらう)	学校図書館で借りる	公共図書館や移動図書館で借りる	児童センターや地域の文庫で借りる	友達などに借りる	その他	計 (回答者数)
		高校生	17年度	64	360	65	124	3	138
	18年度	164	715	128	208	5	215	16	1,451
	19年度	118	702	122	160	4	261	16	1,383
	20年度	153	759	105	145	5	249	14	1,430
	21年度	145	734	123	158	3	226	15	1,404
	22年度	136	719	116	166	5	207	4	1,353
		家にあるので	買う(買ってもらう)	学校図書館で借りる	公共図書館や移動図書館で借りる	児童センターや地域の文庫で借りる	友達などに借りる	その他	計 (回答者数)
		計	17年度	311	892	374	388	17	255
	18年度	636	1,769	789	583	43	497	47	4,364
	19年度	484	1,799	750	450	33	599	35	4,150
	20年度	488	1,850	798	443	36	574	29	4,218
	21年度	497	1,758	764	485	32	512	30	4,078
	22年度	558	1,848	751	479	30	515	13	4,194

【質問4 - 3】あなたは本を読むとき、その本をどのようにして手に入れることが多いですか。2つまで選んでください。

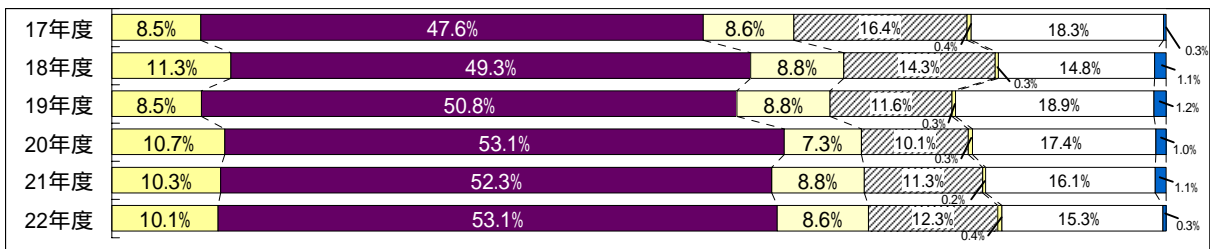
【小学生】



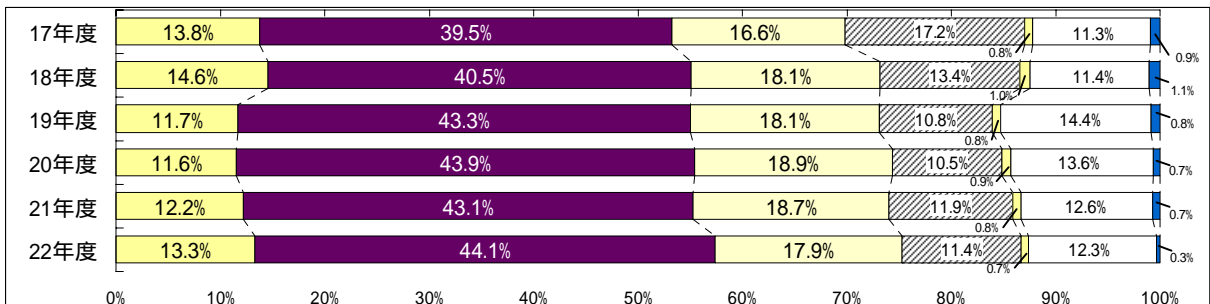
【中学生】



【高校生】



【小・中・高校生計】



「買う」と回答した割合は、小・中・高校生全体として、高いものとなっており、「学校図書館で借りる」と回答した割合と比較すると、小学生ではほぼ同じであるのに対し、中学生では3倍近く、高校生では6倍近い差が見られる。

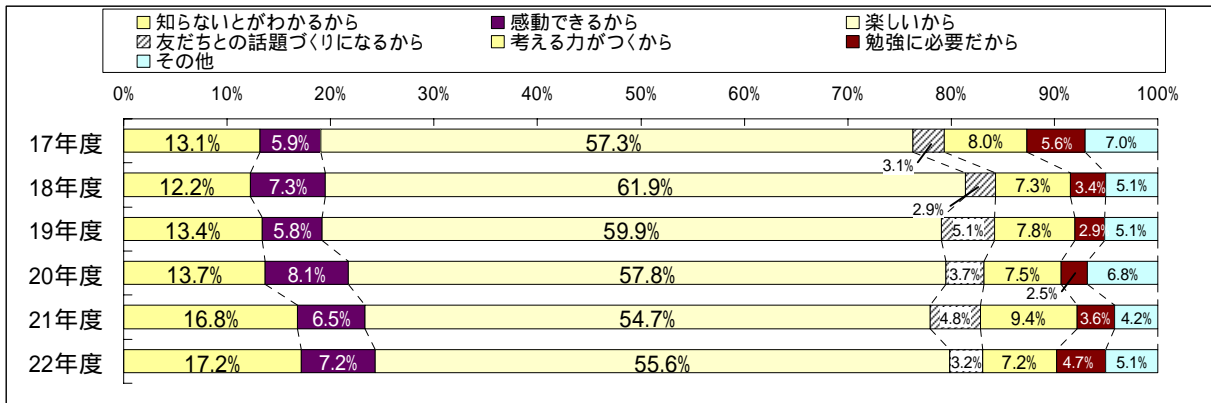
また、図書館(学校図書館と公共図書館の合計)で借りる割合(22年度)は、小学生では42.9%であるが、中学生では23.5%、高校生では20.9%と、年齢が上がるにつれて低くなっており、買ったり、友達に借りたりする割合が高くなっている。

【質問5】あなたが、本を読むのはどうしてですか。最もあてはまるものを1つ選んでください。

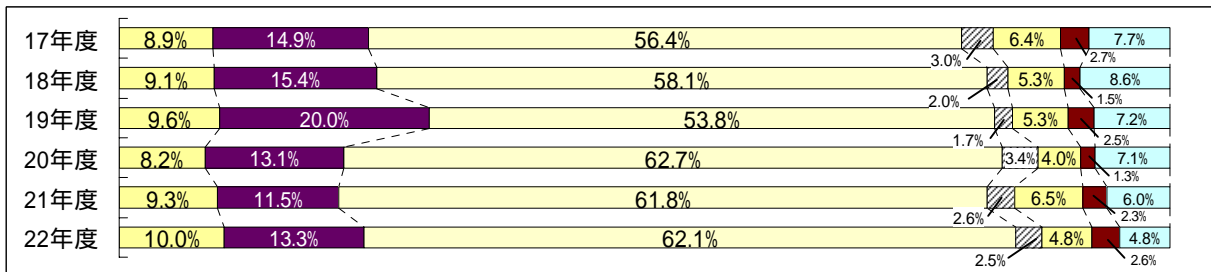
		知らないに とが分かる から	感動できる から	楽しいから	友達との話 題づくり になるから	考える力が つくから	勉強に必要 だから	その他	計 (回答者数)
		小学生	17年度	56	25	244	13	34	24
	18年度	101	60	511	24	60	28	42	826
	19年度	107	46	478	41	62	23	41	798
	20年度	108	64	457	29	59	20	54	791
	21年度	129	50	420	37	72	28	32	768
	22年度	139	58	450	26	58	38	41	810
中学生	17年度	36	60	228	12	26	11	31	404
	18年度	73	124	467	16	43	12	69	804
	19年度	78	163	439	14	43	20	59	816
	20年度	67	107	511	28	33	11	58	815
	21年度	72	89	477	20	50	18	46	772
	22年度	81	108	505	20	39	21	39	813
	高校生	17年度	35	105	221	10	29	16	44
18年度		83	215	460	10	55	21	68	912
19年度		69	186	489	11	52	27	55	889
20年度		88	179	513	15	29	18	56	898
21年度		89	148	546	3	28	26	56	896
22年度		71	156	557	6	32	16	39	877
計		17年度	127	190	693	35	89	51	105
	18年度	257	399	1,438	50	158	61	179	2,542
	19年度	254	395	1,406	66	157	70	155	2,503
	20年度	263	350	1,481	72	121	49	168	2,504
	21年度	290	287	1,443	60	150	72	134	2,436
	22年度	291	322	1,512	52	129	75	119	2,500

【質問5】あなたが、本を読むのはどうしてですか。最もあてはまるものを1つ選んでください。

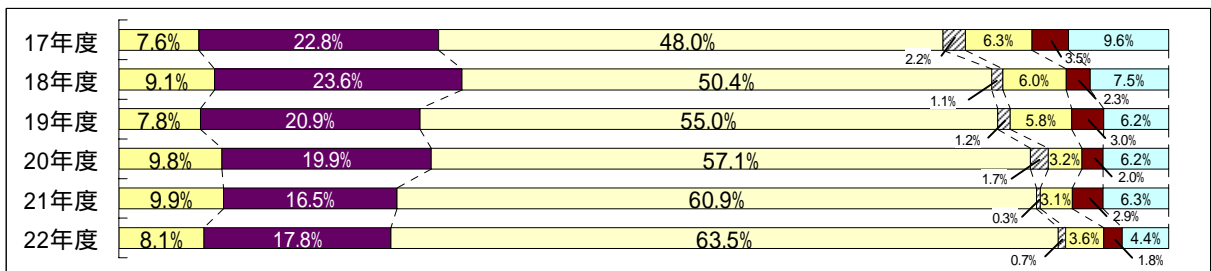
【小学生】



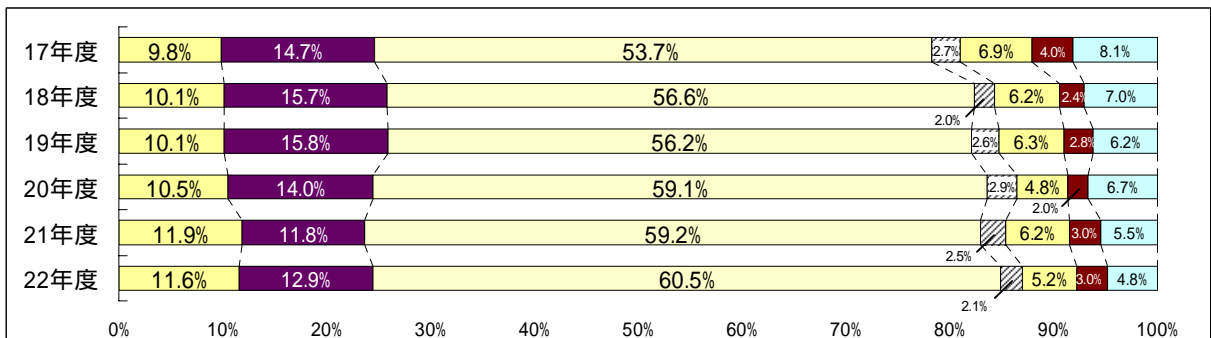
【中学生】



【高校生】



【小・中・高校生計】



小・中・高校生のいずれにおいても、「楽しいから」と回答した割合が最も高くなっている。

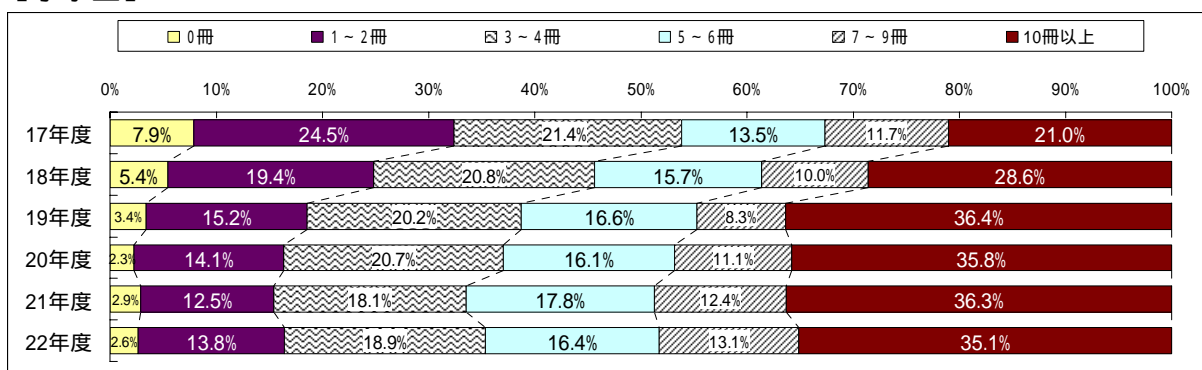
次に割合が高いのは、小学生では「知らないことが分かるから」であるが、中・高校生では「感動できるから」となっている。

【質問6】あなた最近1ヶ月間に、本を何冊ぐらい読みましたか。読んでいる途中でも1冊に入れてください。

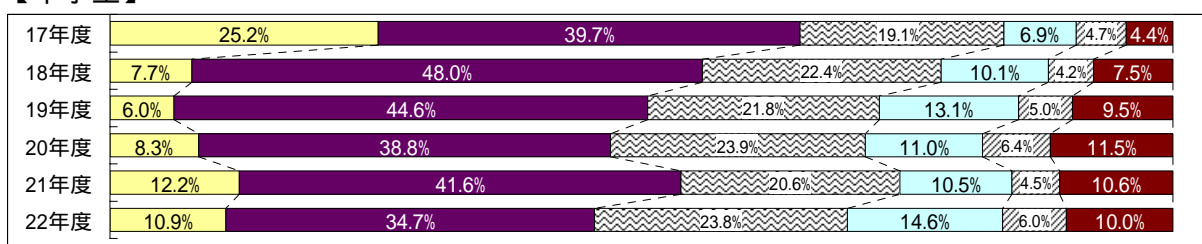
		0冊	1～2冊	3～4冊	5～6冊	7～9冊	10冊以上	計 (回答者数)	総冊数	平均(冊)	
		小学生	17年度	34	105	92	58	50	90	429	2,728
	18年度	45	160	172	130	83	236	826	5,659	6.85	
	19年度	27	122	162	133	67	292	803	7,718	9.61	
	20年度	18	112	164	128	88	284	794	8,272	10.42	
	21年度	22	96	139	136	95	278	766	9,616	12.55	
	22年度	21	112	153	133	106	284	809	8,449	10.44	
中学生		0冊	1～2冊	3～4冊	5～6冊	7～9冊	10冊以上	計 (回答者数)	総冊数	平均(冊)	
		17年度	103	162	78	28	19	18	408	1,060	2.60
		18年度	62	385	180	81	34	60	802	2,749	3.43
		19年度	49	362	177	106	41	77	812	3,533	4.35
		20年度	68	316	195	90	52	94	815	3,934	4.83
		21年度	94	321	159	81	35	82	772	3,318	4.30
		22年度	89	283	194	119	49	82	816	3,565	4.37
高校生		0冊	1～2冊	3～4冊	5～6冊	7～9冊	10冊以上	計 (回答者数)	総冊数	平均(冊)	
		17年度	261	148	27	19	1	7	463	534	1.15
		18年度	428	350	91	22	9	18	918	1,202	1.31
		19年度	413	343	79	32	7	19	893	1,371	1.54
		20年度	410	338	99	34	6	17	904	1,255	1.39
		21年度	422	339	82	26	7	17	893	1,336	1.50
		22年度	400	343	84	34	10	16	887	1,322	1.49
計		0冊	1～2冊	3～4冊	5～6冊	7～9冊	10冊以上	計 (回答者数)	総冊数	平均(冊)	
		17年度	398	415	197	105	70	115	1,300	4,322	3.32
		18年度	535	895	443	233	126	314	2,546	9,610	3.77
		19年度	489	827	418	271	115	388	2,508	12,622	5.03
		20年度	496	766	458	252	146	395	2,513	13,461	5.36
		21年度	538	756	380	243	137	377	2,431	14,270	5.87
		22年度	510	738	431	286	165	382	2,512	13,336	5.31

【質問6】あなた最近1ヶ月間に、本を何冊ぐらい読みましたか。読んでいる途中で1冊に入れてください。

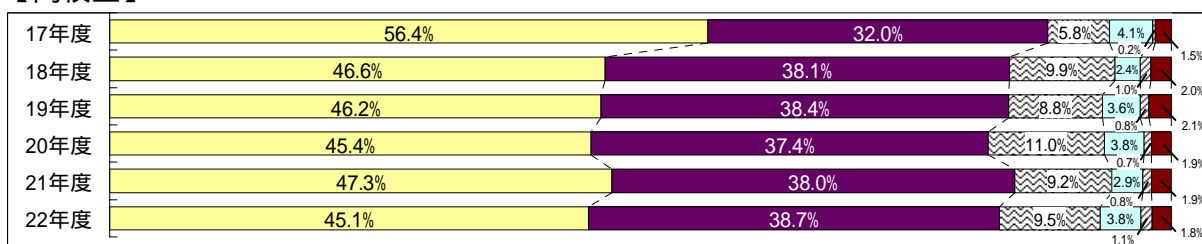
【小学生】



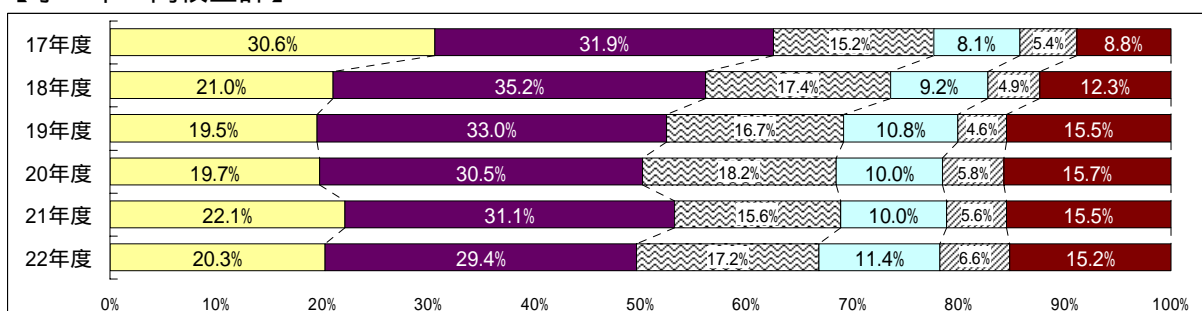
【中学生】



【高校生】



【小・中・高校生計】



1ヶ月に本を1冊も読まない子どもの割合(不読者・22年度)は、小学生では2.6%、中学生では10.9%、高校生では45.1%となっており、17年度と比較すると、いずれにおいても減少している。

小学生では、およそ半数の子どもが1ヶ月に5冊以上の本を読んでいる。また、10冊以上の本を読んでいる子どもが多いことも、小学生における大きな特徴である。

中学生では、およそ6割の子どもが1ヶ月に1～4冊の本を読んでいる。

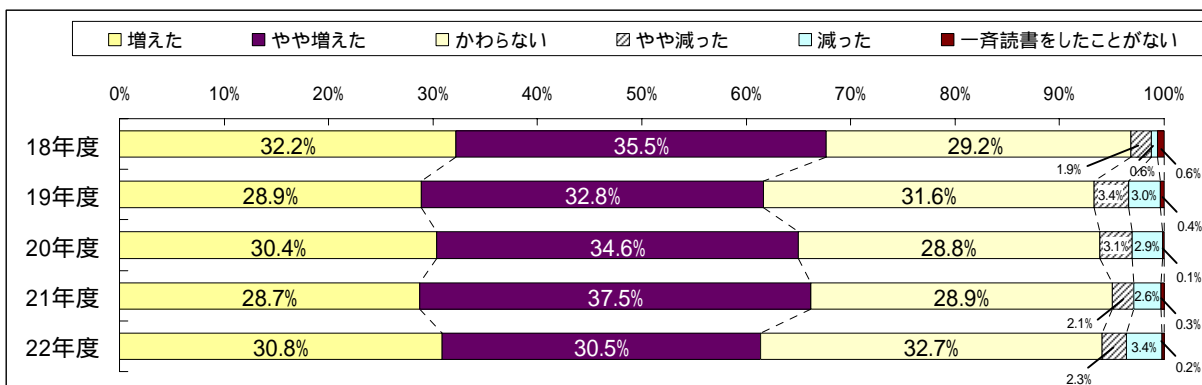
高校生では、不読者の割合が最も多く、「2冊以下」と回答した割合と合わせると、8割以上である。

【質問7】今までの学校の一斉読書の時間（「朝読書」「読書の時間」などのことです）をきっかけとして、本を読む時間や回数が増えましたか。（18年度からの設問）

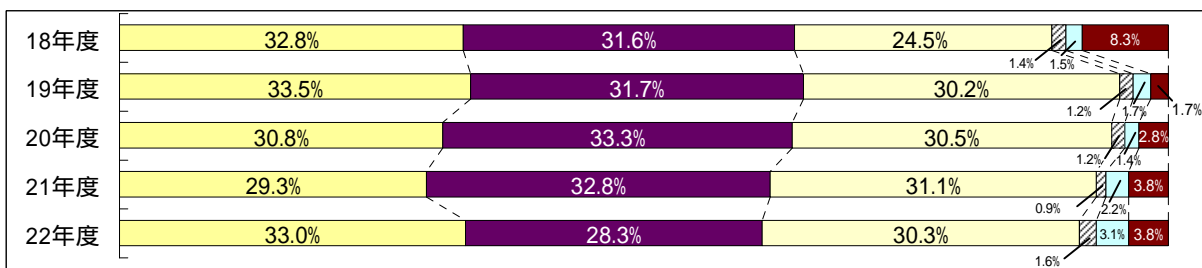
		増えた	やや増えた	かわらない	やや減った	減った	一斉読書をしたことがない	計 (回答者数)
		小学生	18年度	265	292	240	16	5
	19年度	232	263	254	27	24	3	803
	20年度	241	275	229	25	23	1	794
	21年度	221	288	222	16	20	2	769
	22年度	251	248	266	19	28	2	814
		増えた	やや増えた	かわらない	やや減った	減った	一斉読書をしたことがない	計 (回答者数)
		中学生	18年度	262	253	196	11	12
	19年度	275	260	248	10	14	14	821
	20年度	251	271	248	10	11	23	814
	21年度	225	252	239	7	17	29	769
	22年度	270	232	248	13	25	31	819
		増えた	やや増えた	かわらない	やや減った	減った	一斉読書をしたことがない	計 (回答者数)
		高校生	18年度	54	92	239	5	10
	19年度	97	191	380	8	27	187	890
	20年度	126	212	427	8	34	94	901
	21年度	117	184	406	5	36	148	896
	22年度	105	230	438	13	38	69	893
		増えた	やや増えた	かわらない	やや減った	減った	一斉読書をしたことがない	計 (回答者数)
		計	18年度	581	637	675	32	27
	19年度	604	714	882	45	65	204	2,514
	20年度	618	758	904	43	68	118	2,509
	21年度	563	724	867	28	73	179	2,434
	22年度	626	710	952	45	91	102	2,526

【質問7】今までの学校の一斉読書の時間（「朝読書」「読書の時間」などのことです）をきっかけとして、本を読む時間や回数が増えましたか。（18年度からの設問）

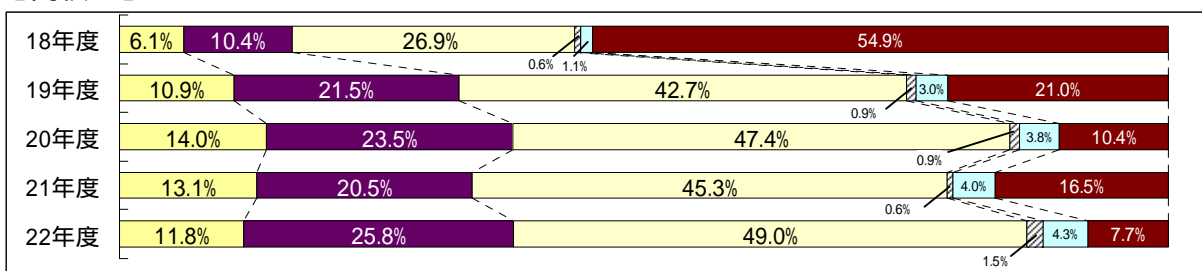
【小学生】



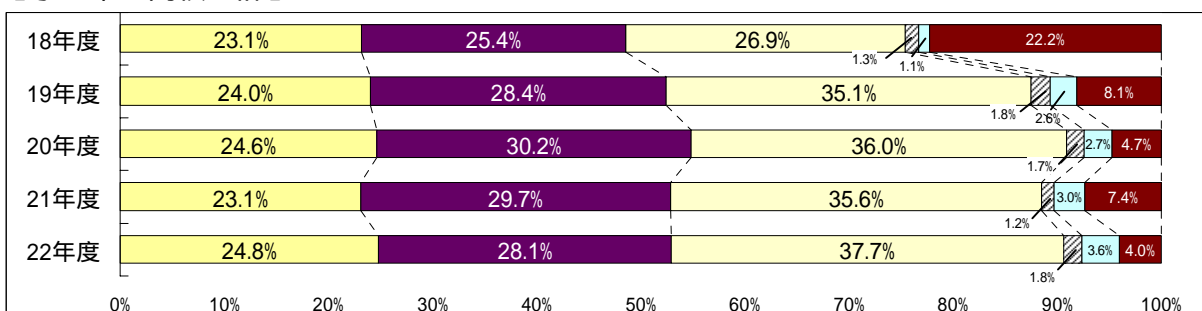
【中学生】



【高校生】



【小・中・高校生計】



「増えた」と「やや増えた」を合わせると、小・中学生では、6割以上となっているが、高校生では(18年度を除き)3割程度となっており、半数が「かわらない」と回答している。

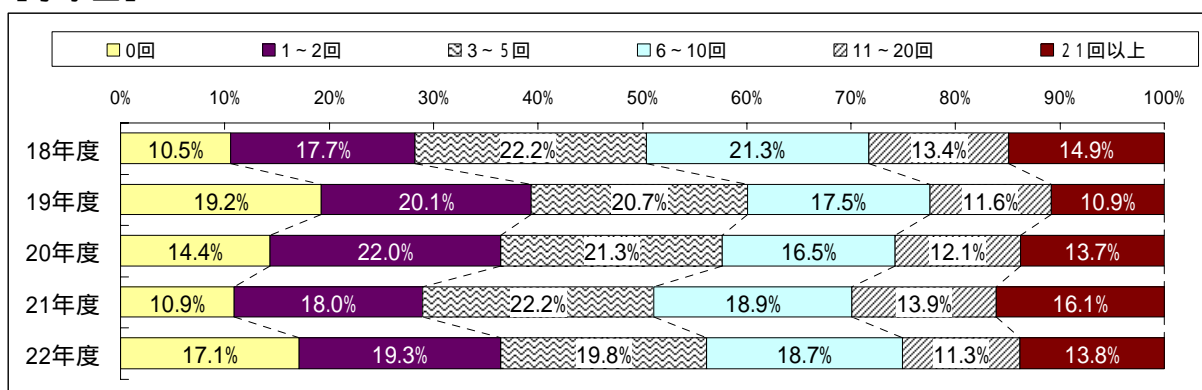
18～22年度の推移において、小・中学生ではあまり大きな変化は見られないが、高校生では、「一斉読書をしたことがない」と回答した割合が、大幅に減少している。これは、中学校において全校一斉読書の普及が進んだことが要因と考えられる。

**【質問8】あなたは、この1年間に公共の図書館に何回ぐらい行ったことがありますか。
(18年度からの設問)**

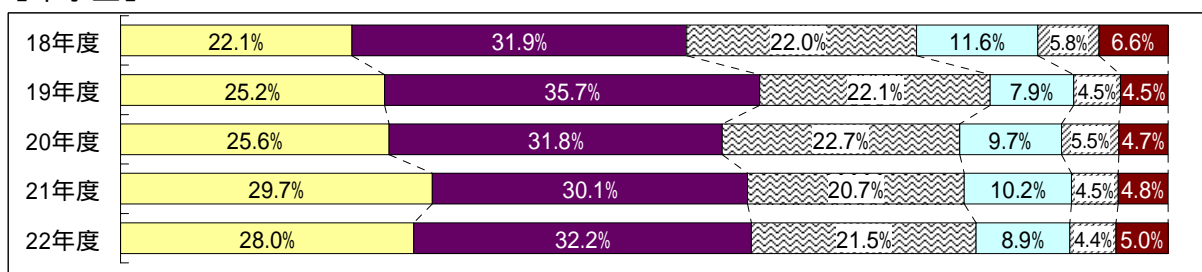
		0回	1～2回	3～5回	6～10回	11～20回	21回以上	計 (回答者数)
		小学生	18年度	87	146	183	176	111
	19年度	154	161	166	140	93	87	801
	20年度	114	175	169	131	96	109	794
	21年度	84	139	171	146	107	124	771
	22年度	139	157	161	152	92	112	813
		0回	1～2回	3～5回	6～10回	11～20回	21回以上	計 (回答者数)
		中学生	18年度	178	257	177	93	47
	19年度	207	293	181	65	37	37	820
	20年度	209	259	185	79	45	38	815
	21年度	231	234	161	79	35	37	777
	22年度	230	265	177	73	36	41	822
		0回	1～2回	3～5回	6～10回	11～20回	21回以上	計 (回答者数)
		高校生	18年度	291	264	167	94	51
	19年度	297	248	149	79	66	51	890
	20年度	244	235	204	105	51	70	909
	21年度	282	244	140	100	58	79	903
	22年度	230	270	162	105	65	62	894
		0回	1～2回	3～5回	6～10回	11～20回	21回以上	計 (回答者数)
		計	18年度	556	667	527	363	209
	19年度	658	702	496	284	196	175	2,511
	20年度	567	669	558	315	192	217	2,518
	21年度	597	617	472	325	200	240	2,451
	22年度	599	692	500	330	193	215	2,529

**【質問 8】あなたは、この 1 年間に公共の図書館に何回ぐらい行ったことがありますか。
(18 年度からの設問)**

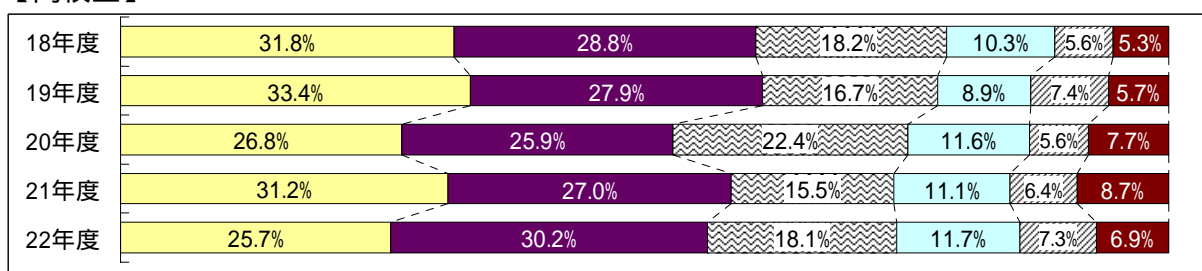
【小学生】



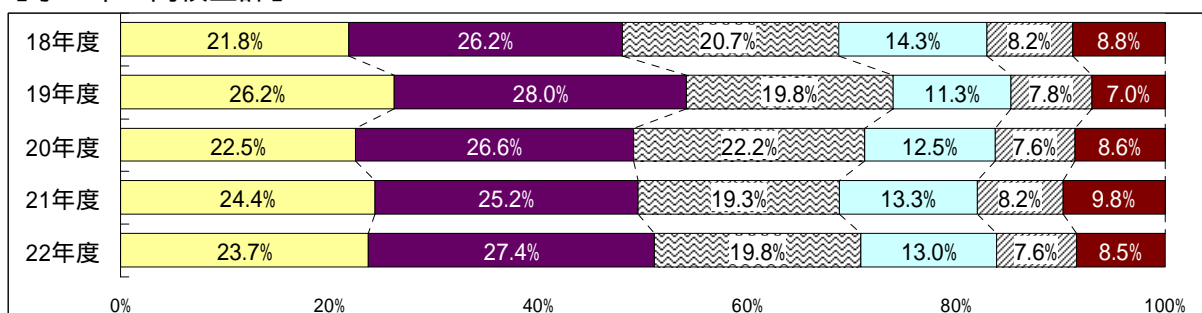
【中学生】



【高校生】



【小・中・高校生計】



18～22 年度の推移をしてみると、小学生では、「3～5回」の割合が高い傾向であり、中学生では、「1～2回」の割合が最も高くなっている。高校生では、「0回」の割合が高い傾向があるが、22年度は「1～2回」の割合が最も高くなっている。成長するにつれて、公共図書館の利用が減少する傾向がある。

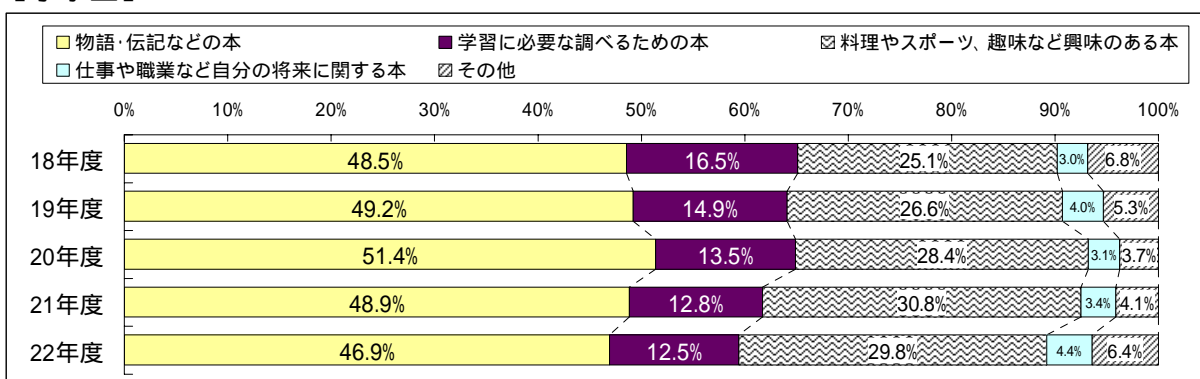
各選択肢の回答傾向が、中学生と高校生では似ているが、10回以上の割合は、18年度を除き、中学生より高校生の方が高くなっている。これは、勉強のために定期的に図書館を利用する場合が高校生でより多くなっているものと推察できる。

【質問9】学校図書館や公共の図書館などで本を借りるとき、どのような本を借りますか。多いものを2つまで選んでください。(18年度からの設問)

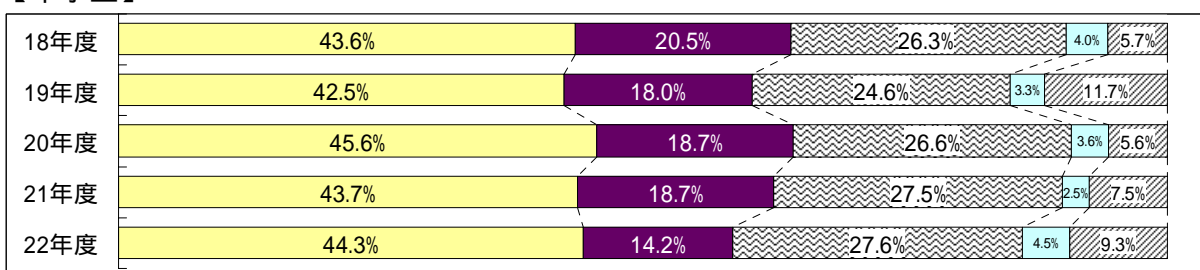
		物語・伝記などの本	学習に必要な調べるための本	料理やスポーツ、趣味など興味のある本	仕事や職業など自分の将来に関する本	その他	計 (回答者数)
		小学生	18年度	669	228	346	41
	19年度	609	184	329	49	66	1,237
	20年度	623	164	344	37	45	1,213
	21年度	613	161	386	43	51	1,254
	22年度	595	158	378	56	81	1,268
		物語・伝記などの本	学習に必要な調べるための本	料理やスポーツ、趣味など興味のある本	仕事や職業など自分の将来に関する本	その他	計 (回答者数)
		中学生	18年度	524	247	316	48
	19年度	501	212	290	39	138	1,180
	20年度	539	221	314	42	66	1,182
	21年度	481	206	303	28	82	1,100
	22年度	528	169	329	54	111	1,191
		物語・伝記などの本	学習に必要な調べるための本	料理やスポーツ、趣味など興味のある本	仕事や職業など自分の将来に関する本	その他	計 (回答者数)
		高校生	18年度	520	281	296	69
	19年度	439	320	263	97	80	1,199
	20年度	448	297	311	103	63	1,222
	21年度	465	285	309	91	64	1,214
	22年度	460	268	309	84	60	1,181
		物語・伝記などの本	学習に必要な調べるための本	料理やスポーツ、趣味など興味のある本	仕事や職業など自分の将来に関する本	その他	計 (回答者数)
		計	18年度	1,713	756	958	158
	19年度	1,549	716	882	185	284	3,616
	20年度	1,610	682	969	182	174	3,617
	21年度	1,559	652	998	162	197	3,568
	22年度	1,583	595	1,016	194	252	3,640

【質問9】学校図書館や公共の図書館などで本を借りるとき、どのような本を借りますか。多いものを2つまで選んでください。（18年度からの設問）

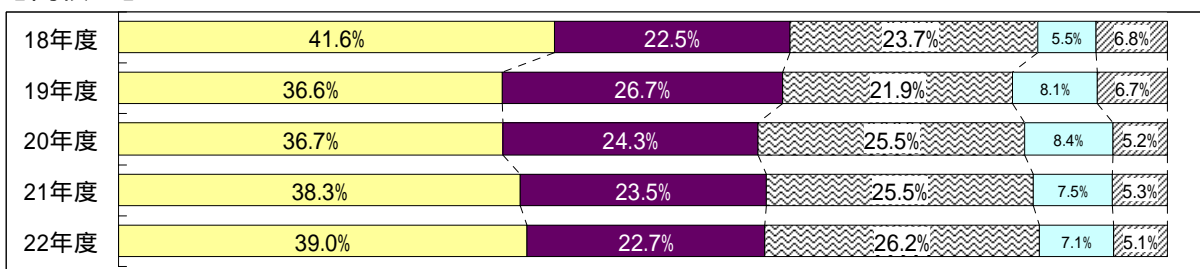
【小学生】



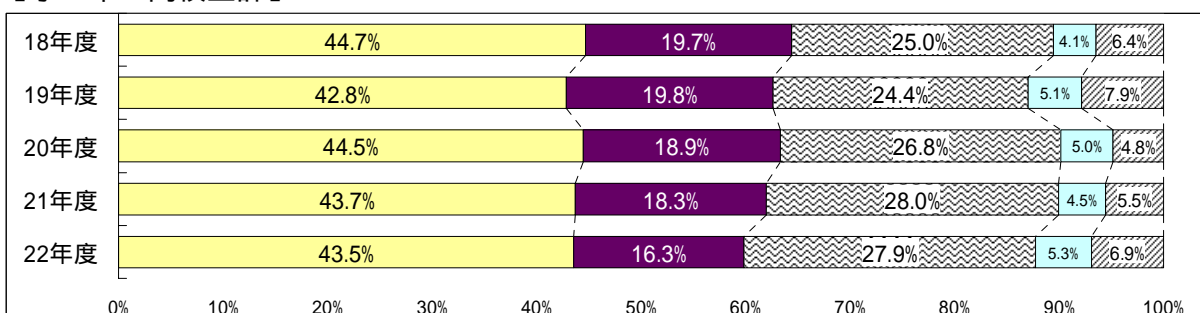
【中学生】



【高校生】



【小・中・高校生計】



小・中・高校生のいずれにおいても、「物語・伝記などの本」と回答した割合が最も高くなっている。

各選択肢の回答傾向は、小・中・高校生において大きな差はないが、「学習に必要な調べるための本」の割合が、成長するにつれて増加し、「物語・伝記などの本」の割合が減少している。

2 さいたま市立図書館一覧

図書館名	所蔵数（平成 21 年度）		所在地	電話番号
	一般書	児童書		
中央図書館	281,311	48,211	浦和区東高砂 11 - 1 コムナーレ 8 F	871-2100
北浦和図書館	128,141	122,443	浦和区北浦和 1 - 4 - 2	832-2321
南浦和図書館	97,819	44,672	南区根岸 1 - 7 - 1	862-8568
東浦和図書館	148,316	62,694	緑区中尾 1440 - 8 プラザイースト内	875-9977
大宮図書館	167,187	70,346	大宮区高鼻町 2 - 1 - 1	643-3701
桜木図書館	55,003	20,683	大宮区桜木町 1 - 10 - 18 シーノ大宮センタープラザ 4 F	649-5871
大宮西部図書館	263,984	168,480	北区櫛引町 2 - 499 - 1	664-4946
馬宮図書館	63,084	26,242	西区西遊馬 533 - 1 馬宮コミュニティセンター内	625-8831
大宮西部図書館 三橋分館	14,253	13,695	西区三橋 6 - 642 - 4 西部文化センター内	625-4319
春野図書館	74,682	39,313	見沼区春野 2 - 12 - 1	687-8301
大宮東図書館	48,023	29,178	見沼区堀崎町 48 - 1	688-1434
七里図書館	43,887	28,895	見沼区大谷 1210 七里コミュニティセンター内	682-3248
片柳図書館	47,678	23,850	見沼区染谷 3 - 147 - 1 片柳コミュニティセンター内	682-1222
与野図書館	86,576	35,083	中央区下落合 5 - 11 - 11	853-7816
与野南図書館	32,965	19,428	中央区大戸 6 - 28 - 16	855-3735
与野図書館西分館	29,810	16,952	中央区桜丘 2 - 6 - 28 西与野コミュニティホール内	854-8636
岩槻図書館	77,347	35,886	岩槻区本町 4 - 2 - 25	757-2523
岩槻駅東口図書館	44,483	18,146	岩槻区本町 3 - 1 - 1 WATSU コムザ内	758-3200
岩槻東部図書館	32,135	15,648	岩槻区東岩槻 6 - 6 ふれあいプラザいわつき内	756-6665
桜図書館	113,780	48,083	桜区道場 4 - 3 - 1 プラザウエスト内	858-9090
桜図書館 大久保東分館	7,184	22,944	桜区大久保領家 131 - 6 大久保東公民館内	853-7100
北図書館	106,624	38,255	北区宮原町 1 - 852 - 1 プラザノース内	669-6111
宮原図書館	43,121	36,846	北区吉野町 2 - 195 - 1 宮原コミュニティセンター内	662-5401
移動図書館	6,737	42,482		
配本所	16,709	21,149		
合計	2,030,839	1,049,604		

3 子どもの読書活動の推進に関する法律

(平成13年法律第154号)

(目的)

第一条 この法律は、子どもの読書活動の推進に関し、基本理念を定め、並びに国及び地方公共団体の責務等を明らかにするとともに、子どもの読書活動の推進に関する必要な事項を定めることにより、子どもの読書活動の推進に関する施策を総合的かつ計画的に推進し、もって子どもの健やかな成長に資することを目的とする。

(基本理念)

第二条 子ども(おおむね十八歳以下の者をいう。以下同じ。)の読書活動は、子どもが、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付けていく上で欠くことのできないものであることにかんがみ、すべての子どもがあらゆる機会とあらゆる場所において自主的に読書活動を行うことができるよう、積極的にそのための環境の整備が推進されなければならない。

(国の責務)

第三条 国は、前条の基本理念(以下「基本理念」という。)にのっとり、子どもの読書活動の推進に関する施策を総合的に策定し、及び実施する責務を有する。

(地方公共団体の責務)

第四条 地方公共団体は、基本理念にのっとり、国との連携を図りつつ、その地域の実情を踏まえ、子どもの読書活動の推進に関する施策を策定し、及び実施する責務を有する。

(事業者の努力)

第五条 事業者は、その事業活動を行うに当たっては、基本理念にのっとり、子どもの読書活動が推進されるよう、子どもの健やかな成長に資する書籍等の提供に努めるものとする。

(保護者の役割)

第六条 父母その他の保護者は、子どもの読書活動の機会の充実及び読書活動の習慣化に積極的な役割を果たすものとする。

(関係機関等との連携強化)

第七条 国及び地方公共団体は、子どもの読書活動の推進に関する施策が円滑に実施されるよう、学校、図書館その他の関係機関及び民間団体との連携の強化その他必要な体制の整備に努めるものとする。

(子ども読書活動推進基本計画)

第八条 政府は、子どもの読書活動の推進に関する施策の総合的かつ計画的な推進を図るため、子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画(以下「子ども読書活動推進基本計画」という。)を策定しなければならない。

2 政府は、子ども読書活動推進基本計画を策定したときは、遅滞なく、これを国会に報告するとともに、公表しなければならない。

3 前項の規定は、子ども読書活動推進基本計画の変更について準用する。

(都道府県子ども読書活動推進計画等)

第九条 都道府県は、子ども読書活動推進基本計画を基本とするとともに、当該都道府県における子どもの読書活動の推進の状況等を踏まえ、当該都道府県における子どもの読書活動の推進に関する施策についての計画(以下「都道府県子ども読書活動推進計画」という。)を策定するよう努めなければならない。

2 市町村は、子ども読書活動推進基本計画(都道府県子ども読書活動推進計画が策定されているときは、子ども読書活動推進基本計画及び都道府県子ども読書活動推進計画)を基本とするともに、当該市町村における子どもの読書活動の推進の状況等を踏まえ、当該市町村における子どもの読書活動の推進に関する施策についての計画(以下「市町村子ども読書活動推進計画」という。)を策定するよう努めなければならない。

3 都道府県又は市町村は、都道府県子ども読書活動推進計画又は市町村子ども読書活動推進計画を策定したときは、これを公表しなければならない。

4 前項の規定は、都道府県子ども読書活動推進計画又は市町村子ども読書活動推進計画の変更について準用する。

(子ども読書の日)

第十条 国民の間に広く子どもの読書活動についての関心と理解を深めるとともに、子どもが積極的に読書活動を行う意欲を高めるため、子ども読書の日を設け

る。

2 子ども読書の日は、四月二十三日とする。

3 国及び地方公共団体は、子ども読書の日趣旨にふさわしい事業を実施するよう努めなければならない。

(財政上の措置等)

第十一条 国及び地方公共団体は、子どもの読書活動の推進に関する施策を実施するため必要な財政上の措置その他の措置を講ずるよう努めるものとする。

附則

この法律は、公布の日から施行する。

衆議院文部科学委員会における附帯決議

政府は、本法施行に当たり、次の事項について配慮すべきである。

一 本法は、子どもの自主的な読書活動が推進されるよう必要な施策を講じて環境を整備していくものであり、行政が不当に干渉することのないようにすること。

二 民意を反映し、子ども読書活動推進基本計画を速やかに策定し、子どもの読書活動の推進に関する施策の確立とその具体化に努めること。

三 子どもがあらゆる機会とあらゆる場所において、本と親しみ、本を楽しむことできる環境づくりのため、学校図書館、公共図書館等の整備充実に努めること。

四 学校図書館、公共図書館等が図書を購入するに当たっては、その自主性を尊重すること。

五 子どもの健やかな成長に資する書籍等については、事業者がそれぞれの自主的判断に基づき提供に努めるようにすること。

六 国及び地方公共団体を実施する子ども読書の日趣旨にふさわしい事業への子どもの参加については、その自主性を尊重すること。

4 さいたま市子ども読書活動推進会議委員

【敬称略】

氏 名	所 属 ・ 職 名	
川本 亨二	さいたま市社会教育委員会議議長	委員
星野 和央	さいたま市図書館協議会委員長	委員
手塚 健一	さいたま市PTA協議会理事	委員
山崎 啓子	NPO教育支援協会会員	委員
小林 昭子	大宮子ども文庫の会会長	委員
加藤 路子	さいたま市よい本を読む運動推進員会会長	委員
小野 安史	さいたま市教育委員会生涯学習部長	座長
中川 晴美	さいたま市教育委員会生涯学習部次長	委員
並木 せつ子	さいたま市教育委員会中央図書館副館長	副座長
小林 俊雄	さいたま市教育委員会学校教育部指導1課長	委員
常見 昌弘	さいたま市教育委員会学校教育部教育研究所長	委員
石井 信子	さいたま市教育委員会大古里公民館長	委員
宮田 英男	さいたま市子ども未来局子ども育成部子育て支援課長	委員
小林 俊茂	さいたま市子ども未来局保育部保育課長	委員



さいたま市子ども読書活動推進計画（改訂版）
発行 平成 23 年 4 月 さいたま市
問い合わせ先 〒330-9588 さいたま市浦和区常盤 6 - 4 - 4
さいたま市教育委員会・生涯学習振興課
電話：048-829-1704（直通）
F A X：048-829-1990
Eメール：shogai-gakushu-shinko@city.saitama.lg.jp